

アセットマネジメント One

ファンド評価レポート

2025年9月
(2025年3月末基準)

Asset Management One Fund Review Report



投資の力で未来をはぐくむ

目次

■はじめに

投資家のみなさまの資産運用に貢献することを目指して 1

■ファンド評価について

ファンド評価の概要 2

ファンド評価の実施・改善に係る体制 3

ファンド評価の方法 4

■ファンド品質向上に向けた取り組み

アセットクラス別CIO制の導入 7

■ファンド評価結果

ファンド評価の総括 8

ファンド評価一覧 9

個別ファンド評価(レッド評価) 21

2024年9月モニタリング対象ファンドの現状と取り組み方針 38

個別ファンド評価(グリーン評価) 43

■巻末

用語集 52

ご留意事項等 53

投資家のみなさまの資産運用に貢献することを目指して

私たちアセットマネジメントOneは、「投資の力で未来をはぐくむ」というコーポレートメッセージのもと、資産運用のプロフェッショナルとしてより良い公募投資信託(ファンド)をご提供し、投資家のみなさまの資産運用に貢献することを目指しています。

良質なファンドを投資家のみなさまにご提供するために、
ファンドの品質を多角的かつ継続的に評価・検証いたします。
そして、ファンド評価の結果、
課題が見つかったファンドにつきましては改善策を立案・実行して、品質の向上・改善を図ってまいります。
また、それらの内容は「ファンド評価レポート」を通じて投資家のみなさまに定期的にお知らせいたします。

今年度、新しい取り組みとして、運用本部において「アセットクラス別CIO制」を導入しました。
各CIOが担当資産全体の運用統括責任を負うことを明確にし、
ファンドの運用力および運用実績の向上・改善により注力してまいります。

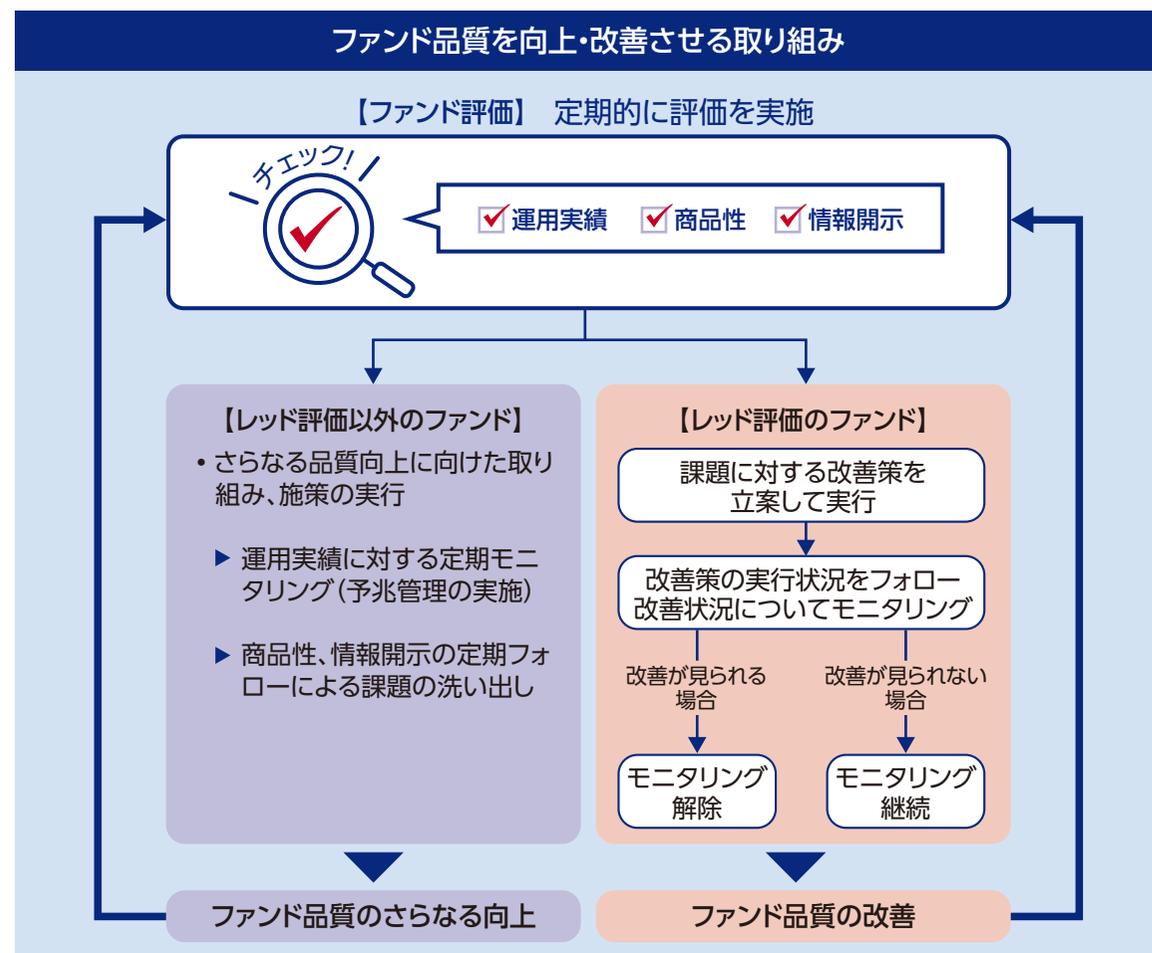
お客さまの大切な資産を受託する運用会社の立場から、
フィデューシャリー・デューティーを全うしていくために、
当社はファンド品質の向上・改善に向けた取り組みを今後も徹底してまいります。

取締役社長 杉原 規之

ファンド評価の概要

- アセットマネジメントOneは、公募投資信託(ファンド)品質の向上・改善を図ることを目的として、定期的にファンド評価を実施します。
- ファンド評価は、「運用実績」「商品性」「情報開示」の3つの項目で行います。1つでも改善事項ありと判断した場合は「レッド評価」として、改善策を立案・実行して改善状況をモニタリングします。
- ファンド評価の結果は、「アセットマネジメントOne ファンド評価レポート」として定期的に公表し、ファンド品質の向上・改善に向けた取り組みをお知らせします。

ファンド品質を向上・改善させる取り組み



ファンド評価
に対する
レポート公表

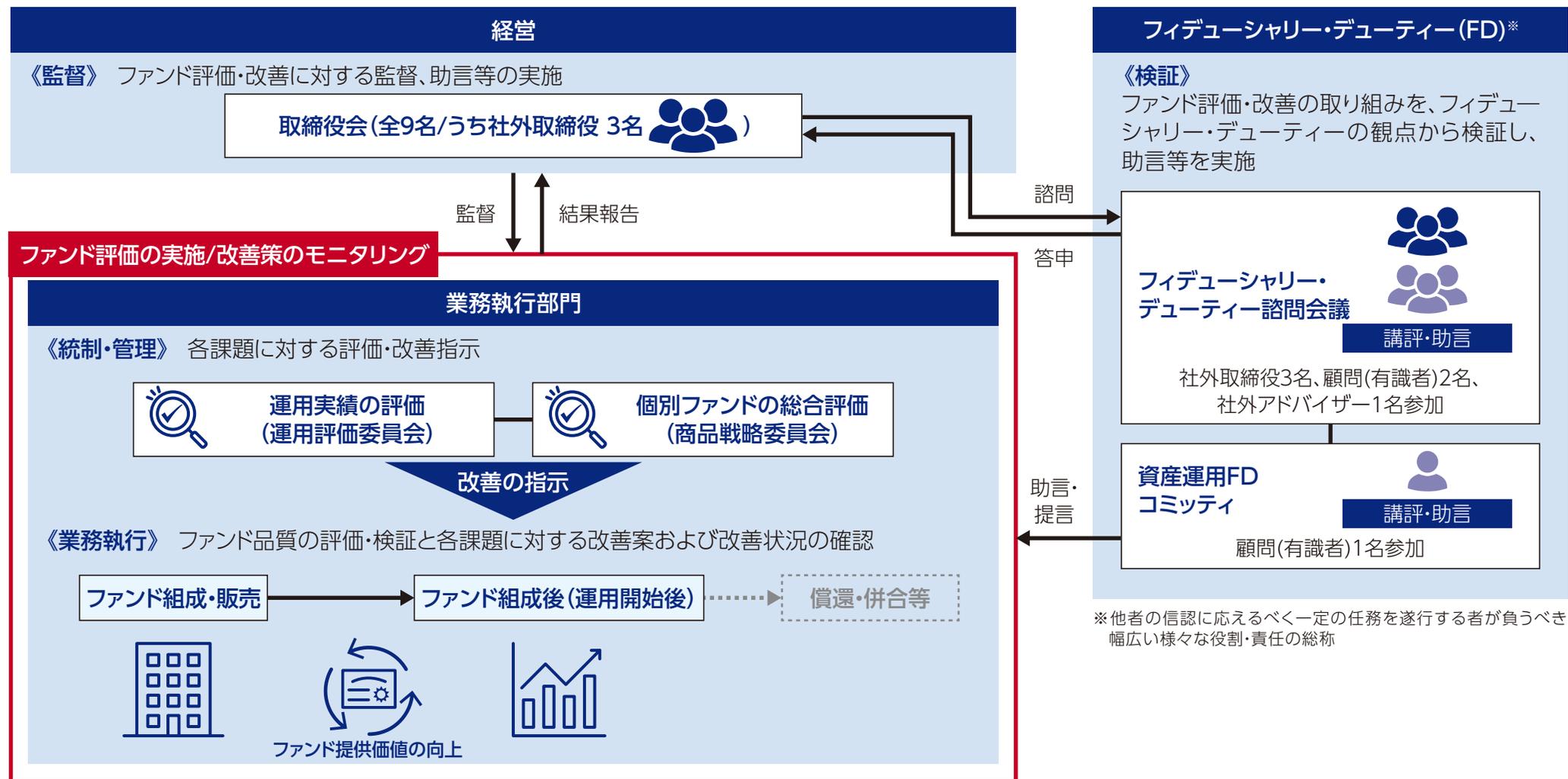
ファンド評価レポートの公表

- 当社の「ファンド評価」が客観性や透明性に留意した取り組みであることをお知らせするため、ファンド評価レポートにおいて目的や考え方を示します。
- レポートでは、改善事項があるレッド評価のファンドと、特に運用実績が上位に位置するグリーン評価のファンドを開示します。レッド評価のファンドは、改善策の立案と取り組み状況、取り組み結果(改善状況)をお知らせします。



ファンド評価の実施・改善に係る体制

- 業務執行部門によるファンド評価とファンド品質管理を徹底することによって、自律的かつ組織的にファンド品質の向上・改善に取り組めます。
- ファンド評価・改善の取り組みに、経営の関与やフィデューシャリー・デューティーの視点を加味することで、ファンド評価およびファンド品質管理の実効性向上を図ります。



ファンド評価の方法：着目点

● ファンドの評価項目(チェック項目)である、「運用実績」「商品性」「情報開示」の評価方法、着目点は以下の通りです。

※ ファンドの評価項目、評価内容は今後変更する場合があります。

ファンド評価におけるチェックポイント

1.運用実績チェック

提供価値のある
運用実績の実現



運用実績データをもとに評価

- お客さまに提供価値のある運用実績(費用控除後)を実現できているかをチェックします。
- 同一カテゴリー*1に分類されるファンドの2022年3月末～2025年3月末(3年)、2020年3月末～2025年3月末(5年)の運用実績*2の相対順位と、ベンチマーク・参考指数の運用実績比較を評価基準とします。

評価結果

上位 中位 下位

2.商品性チェック

長期的な資産形成に
資する商品の提供



3つの評価項目を総合的に評価

- お客さまにとって中・長期的な資産形成に資するファンドであるかを、「品質」「費用」「資金動向」の観点でチェックを行います。
- 各項目におけるチェックポイントは以下の通りです。

品質	運用方針の一貫性や商品の継続性(経済や金融市場の環境変化に伴い品質を維持できるか)
費用	同一カテゴリー*3に分類されるファンドの総経費率との相対的な比較
資金動向	ファンドの資金流入出や平均保有年数*4の状況からみた中・長期的な運用の継続性

3.情報開示チェック

お客さまにとって
分かりやすい
レポートの開示



情報開示状況を総合的に評価

- お客さまがファンドの運用状況等を適切に把握できるかどうかをチェックします。
- 月次レポート等において「必要情報の開示」ができているかを確認します。

必要情報の開示 ファンド特性に沿った情報提供、市場動向や運用方針に関する情報開示、ベンチマーク・参考指数との比較の表示

※1 ファンドの商品性や運用戦略をもとに、同じ分類とみなされるファンドについては「同一カテゴリー」としてしています。こちらは外部評価機関であるMorningstar社が提供するモーニングスター・カテゴリー(MSカテゴリー)を参考にしています。

※2 運用実績が5年以上のファンドは3年・5年の実績をもって、5年未満のファンドは3年のみの実績で評価しています。

※3 外部評価機関であるMorningstar社が提供するモーニングスター・カテゴリー(MSカテゴリー)を使用しています。

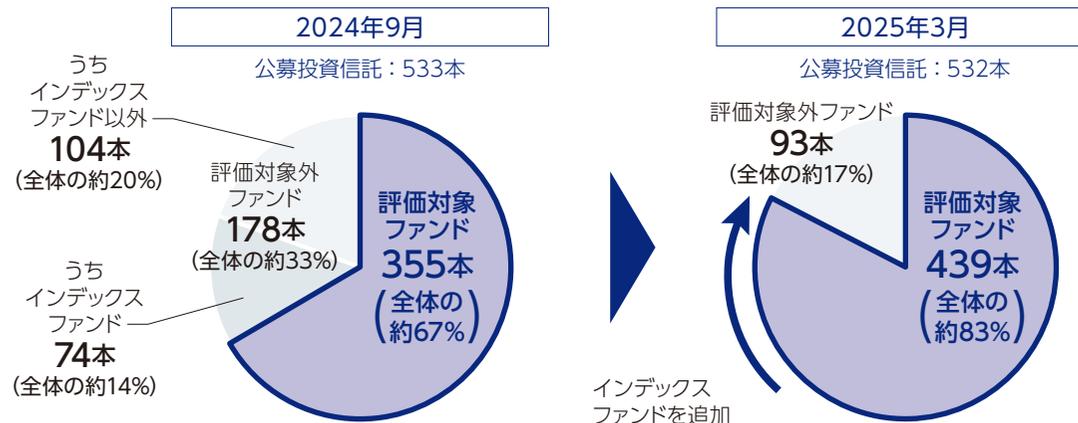
※4 平均保有年数=年間平均残高÷年間解約額で計算します。

※上記評価にあたり、モーニングスター・ダイレクトを使用しています。

ファンド評価の方法：前回(2024年9月評価)からの変更点

評価対象ファンド

- インデックスファンドを評価対象に追加しました。
- インデックスファンドは、特定のインデックスの値動きに追随することを目的としているため、「運用実績」は評価対象外として、「商品性」「情報開示」について評価を行っています。



評価項目

運用実績チェック



- 運用実績を良好とする基準を、より厳格にしました。
- 運用実績を低迷とする基準を広げ、運用実績改善の取り組みをお伝えします。

商品性チェック

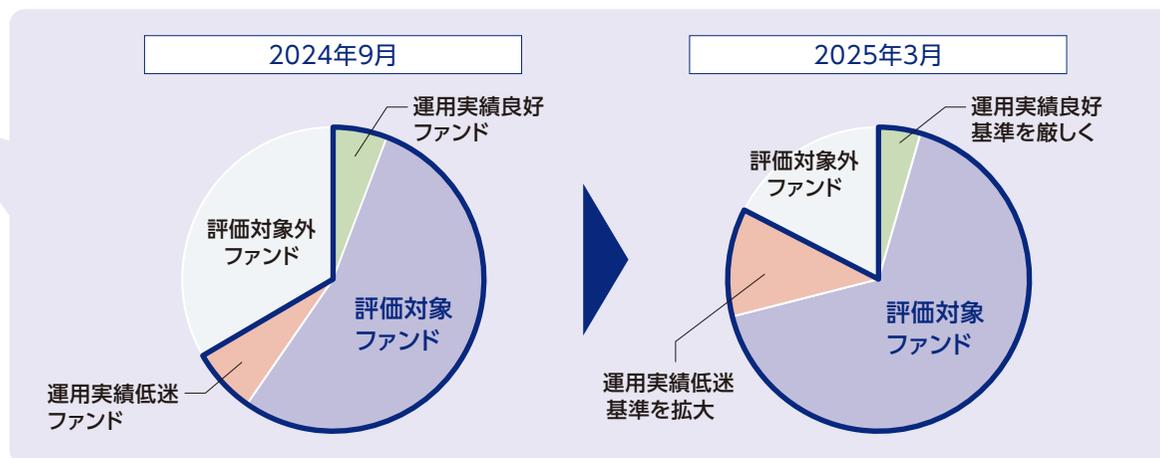


- 相対的に高い総経費率のファンドの抽出精度を高めるため、「総経費率」のスクリーニング方法を変更しました。

情報開示チェック



- 情報開示のチェック対象となる資料を月次レポート等の法定開示以外の資料としました。



ファンド評価の方法：結果表示・開示について

- ファンドの評価項目である「運用実績」「商品性」「情報開示」について、1つでも「改善事項あり」と判断した場合は「レッド評価」とします。
- 「運用実績」について、他社の同一カテゴリーファンドと比較して上位に位置するファンドは「グリーン評価」、下位に位置するファンドは「改善事項あり」として「レッド評価」とします。

① 評価結果の表示方法について

運用実績チェック 	<p>運用実績が良好 (同一カテゴリーファンド対比で上位)</p> <p>G グリーン評価</p>	<p>運用実績が中程度 (同一カテゴリーファンド対比で中位)</p> <p>✓ チェックマーク</p>	<p>運用実績が低迷 (同一カテゴリーファンド対比で下位)</p> <p>R レッド評価</p>	<p>運用開始後、3年未満 /運用評価対象外</p> <p>— 運用評価対象外</p>
商品性チェック 	<p>商品性に大きな課題なし</p> <p>✓ チェックマーク</p>		<p>商品性に改善事項あり</p> <p>R レッド評価</p>	
情報開示チェック 	<p>情報開示に大きな課題なし</p> <p>✓ チェックマーク</p>		<p>情報開示に改善事項あり</p> <p>R レッド評価</p>	

② 個別ファンド開示対象について

<p>G → G</p> <p>運用実績良好な「グリーン評価」のファンドのうち、<u>より良好な運用実績を達成しているファンドについて詳細開示</u></p>	<p>✓ レポート開示なし</p>	<p>R <u>「レッド評価」のファンドについて詳細開示</u> 課題認識と改善に向けた取り組みを記載 2024年9月評価基準で「レッド評価 R」 としたファンドはモニタリング状況を記載</p>
---	-------------------	---

2025年度の取り組み

アセットクラス別CIO制の導入

- 2025年度より、各運用部長が担当資産全体の運用統括責任を負うことを明確化し、資産の特性に応じて、従来以上にきめ細かくPDCAサイクルを回しながら運用実績を追求する体制に移行するべく、以下の3部署においてアセットクラス別のCIO制*を導入いたしました。

*CIO:Chief Investment Officer(最高投資責任者)

アセットクラス別CIOの経歴およびメッセージ

酒井 義隆 株式運用部共同部長



2004年、現アセットマネジメントOneに入社。2005年よりファンドマネジャーとして国内株式運用やオルタナティブ運用を担当。ジャッジメンタル・アクティブ運用のみならずクオンツ・アクティブ運用も手掛け、ロングショート、スマートベータなど幅広い運用経験を持つ。

株式運用部では、「より良い資産運用・運用サービスを、より多くの方に届ける」をモットーに日々精進しております。運用力の強化と、お客さまへの伝達力の強化を図ることで、お客さまに、数ある資産運用会社のうちの一社ではなく、パートナーと認識して頂けるような存在を目指しております。

清水 岳友 債券運用部共同部長



1998年、現三菱UFJ銀行に入行。為替や市場業務に従事したのち、シティグループ証券、Millenium Capital Managementなどを経て、2019年4月にアセットマネジメントOne入社。先進国の為替・金利を中心としたマクロトレーディングに係る豊富な経験を有する。

債券運用部では、お客さまのご期待にお応えできるように、運用力の強化と説明力の強化に向けて日々精進しております。365日24時間、市場で起きていることを漏らさず把握し、最高の資産運用をお届けできるように努め、お客さまと長いお付き合いができることを目指しております。

澤頭 寛 マルチアセット・クオンツ運用部共同部長



2002年に現みずほ銀行入行、20年以上の運用経験を有する。ニューヨーク勤務時の2007年から本格的にクオンツ運用業務に携わり、以来一貫してマルチアセットバランス型戦略やロング・ショート戦略をはじめとしたクオンツ運用に従事。

資産運用のプロフェッショナルとして、お客さまから選ばれ続ける存在であるためには、一人ひとりのたゆまぬ努力と組織の結束力が大切であると考えています。これまでの経験と多様な技術を融合させ、市場の動向を深く分析し、お客さまにとって最適な資産と戦略の組み合わせを追求することで、お客さまの資産形成に貢献してまいります。

(ご参考)運用体制のご紹介

運用本部

- 株式運用部 (内外株式の運用) **CIO制導入**
- 債券運用部 (内外債券の運用) **CIO制導入**
- マルチアセット・クオンツ運用部 (バランス型・統計的手法を利用した運用) **CIO制導入**
- インデックスソリューション部 (全資産のインデックス運用)
- リサーチ・エンゲージメント部
- サステナブル投資戦略部
- フィナンシャルイノベーション部
- トレーディング部
- 運用業務部

戦略運用本部

- マルチマネジャー株式部
- マルチマネジャー債券部
- マルチマネジャー不動産部
- マルチマネジャー業務開発部 (外部運用会社と連携したファンドの運用)
- クロスオーバー投資室

ファンド評価の総括

- 2025年3月末時点で当社が運用を行っている公募投資信託532本のうち、以下のファンドを除外した439本(全体の約83%)がファンド評価の対象です。

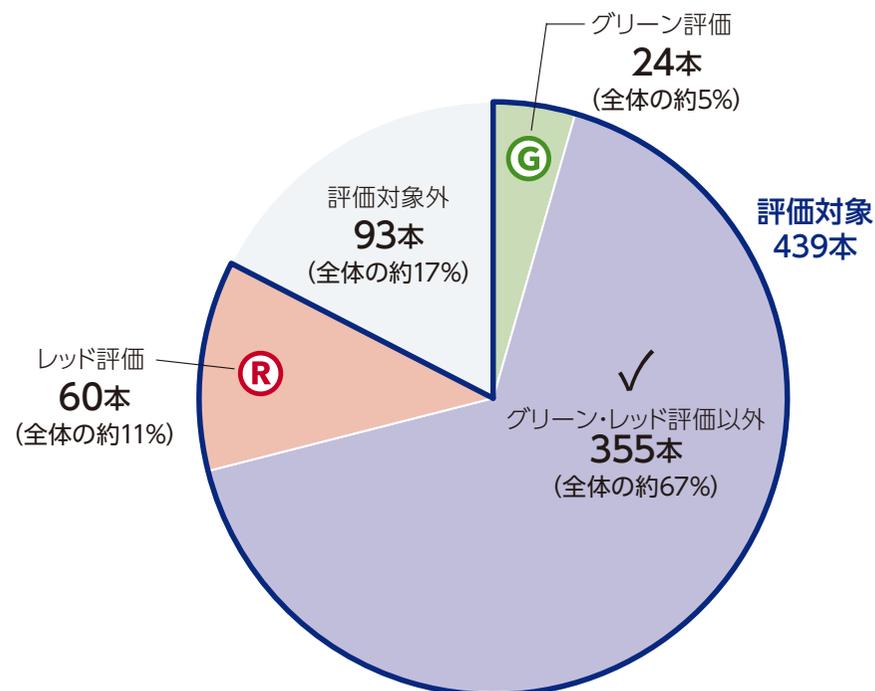
<主な対象外ファンド>

追加型公社債投信(MRF、公社債投信各月号)、マネープール型ファンド、ブルベア型ファンド、償還期限が1年以内のファンド、設定後6ヶ月以内のファンド 等

- 評価対象ファンドの439本のうち、運用実績が上位のグリーン評価ファンドは24本(全体の約5%)、グリーン評価・レッド評価以外のファンドは355本(全体の約67%)、改善事項ありと評価したレッド評価ファンドは60本(全体の約11%)という結果となりました。

公募投資信託		
	評価対象ファンド	評価対象外ファンド
532本	439本 (全体の約83%)	93本 (全体の約17%)
G グリーン評価 運用実績が上位	✓ チェックマーク グリーン・レッド評価以外の ファンド	R レッド評価 運用実績、商品性、情報開示の いずれかに改善事項あり
24本 (全体の約5%)	355本 (全体の約67%)	60本 (全体の約11%)

※グリーン評価とレッド評価では評価項目が異なります。詳細はP5,P7をご参照ください。



ファンド評価一覧_株式

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績 運用実績	商品 商品性	開示 情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (詳細開示) グリーン評価	グリーン・レッド評価以外 ー 運用評価対象外	レッド評価 (今回レッド評価) レッド評価 (前回レッド評価モニタリング中)
--------	---------	--------	---------	----------	-------------------------	---------------------------	---

ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細
株式/国内					
1 AR国内バリュー株式ファンド 愛称:サムライバリュー	17億円	✓	✓	✓	
2 AR国内バリュー株式ファンド(ファンドラップ)	6億円	✓	✓	✓	
3 DIAM国内株式インデックスファンド<DC年金>	1,554億円	—	✓	✓	
4 DIAM国内株式パッシブ・ファンド	223億円	—	✓	✓	
5 DIAMジャパン・セレクション<DC年金>	40億円		✓	✓	
6 DIAM新興企業日本株オープン 米ドル型	66億円		✓	✓	
7 DIAM新興企業日本株ファンド	95億円		✓	✓	
8 DIAM新興市場日本株ファンド	94億円	✓	✓	✓	
9 DIAM成長株オープン 愛称:出世株	43億円	✓	✓		
10 DIAM日本株式オープン<DC年金> 愛称:技あり一本<DC年金>	208億円	✓	✓	✓	
11 DIAM日本経済成長戦略ファンド 愛称:ニッポンのおもてなし	8億円	✓	✓	✓	
12 DL日本株式オープン 愛称:技あり一本(るいとう)	11億円	✓	✓		
13 IBJITMジャパン・セレクション	58億円		✓	✓	
14 MHAM TOPIXオープン	110億円	—		✓	
15 MHAM株式インデックスファンド225	1,782億円	—	✓	✓	
16 MHAMキャピタル・グロース・オープン 愛称:ザ・ベスト・マネジャー	22億円			✓	
17 MHAMジャパンオープン	25億円		✓	✓	
18 MHAM新興成長株オープン 愛称:J-フロンティア	322億円	✓	✓	✓	
19 MHAMトピックスファンド	35億円	—		✓	

ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細
20 MHAM日本株式<DC年金>	26億円	✓	✓	✓	
21 MHAM日本成長株オープン	88億円		✓	✓	
22 MHAM日本成長株ファンド<DC年金>	250億円		✓	✓	
23 MHAM日本バリュー株オープン<DC年金> 愛称:Vオープン<DC年金>	226億円	✓	✓	✓	
24 One DC 国内株式インデックスファンド	1,693億円	—	✓	✓	
25 One ETF ESG	72億円	—	✓	✓	
26 One ETF JPX/S&P 設備・人材投資指数	675億円	—	✓	✓	
27 One ETF JPX日経400	2,597億円	—	✓	✓	
28 One ETF JPX日経中小型	49億円	—	✓	✓	
29 One ETF 高配当日本株	558億円	—	✓	✓	
30 One ETF トピックス	5,726億円	—	✓	✓	
31 One ETF 日経225	3,945億円	—	✓	✓	
32 One高配当利回り厳選ジャパン	86億円		✓		
33 One国内株オープン 愛称:自由演技	871億円	✓	✓	✓	
34 One国内株オープン(年2回決算型) 愛称:自由演技(年2回)	19億円	✓	✓	✓	
35 One国内株式ESGフォーカスファンド<DC年金>	3億円	—	✓	✓	
36 One日本の成長力α<DC年金>	14億円		✓	✓	
37 One割安日本株ファンド	256億円		✓	✓	
38 One割安日本株ファンド(年1回決算型)	158億円		✓	✓	
39 インデックス マネジメント ファンド 225	84億円	—	✓	✓	

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_株式

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績			商品			開示			ファンド評価結果	グリーン評価(詳細開示)			グリーン・レッド評価以外			レッド評価(今回レッド評価)		
	運用実績	商品性	情報開示	商品	開示	詳細	グリーン評価	運用評価対象外	レッド評価(前回レッド評価モニタリング中)										
ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細								
40 インデックス マネジメント ファンド 225(DC年金)	1億円	—	✓	✓		60 ハイブリッド・セレクション 愛称:変幻自在	213億円	✓	✓	✓									
41 海外消費関連日本株ファンド 愛称:クール・ジャパン	49億円	✓	✓	✓		61 ビッグデータ活用 日本中小型株式ファンド 愛称:B・D・F	18億円	✓	✓	✓									
42 企業価値成長小型株ファンド 愛称:眼力	301億円	✓	✓	✓		62 ファンド・コロワイド<DC年金>	2億円	—	✓	✓									
43 きらぼし・みらい応援株式ファンド 愛称:きらぼしみらい	10億円	Ⓡ	✓	✓	■	63 ファンド"メガ・テック"	99億円	✓	✓	✓									
44 厳選ジャパン	38億円	✓	✓	✓		64 ブランドエクイティ	71億円	✓	✓	✓									
45 コア30インデックス	12億円	—	Ⓡ	✓	■	65 マネックス・日本成長株ファンド 愛称:ザ・ファンド@マネックス	29億円	✓	✓	✓									
46 構造改革ジャパン	2億円	—	✓	✓		66 みずほ日経平均ファンド<DC年金>	16億円	—	✓	✓									
47 国内株式アクティブファンドセレクション(ラップ専用)	29億円	✓	✓	✓		67 みずほ日本オールキャップ株式ファンド	579億円	—	✓	✓									
48 ジャパンニューエイジオープン	36億円	✓	✓	✓		68 未来変革日本株ファンド 愛称:挑戦者たち	119億円	Ⓡ	✓	✓	■								
49 新興企業日本株ファンド(資産成長型)	15億円	Ⓡ	✓	✓	■	株式/海外													
50 新光小型株オープン 愛称:波物語	25億円	✓	✓	✓		69 AI(人工知能)活用型世界株ファンド 愛称:ディープAI	353億円	✓	✓	✓									
51 新光日本インカム株式ファンド(3ヵ月決算型)	735億円	Ⓜ	✓	✓	■	70 DIAM VIPフォーカス・ファンド 愛称:アジア倶楽部	94億円	✓	✓	✓									
52 新光日本小型株ファンド 愛称:風物語	143億円	✓	✓	✓		71 DIAM外国株式インデックスファンド<DC年金>	5,578億円	—	✓	✓									
53 たわらノーロード TOPIX	182億円	—	✓	✓		72 DIAM外国株式オープン<DC年金>	1,297億円	✓	✓	✓									
54 たわらノーロード 国内株式<ラップ専用>	204億円	—	✓	✓		73 DIAM外国株式パッシブ・ファンド	371億円	—	✓	✓									
55 たわらノーロード 日経225	1,957億円	—	✓	✓		74 DIAM厳選米国株式ファンド 愛称:アメリカンセレクション	76億円	✓	✓	✓									
56 日経225ノーロードオープン	3,260億円	—	✓	✓		75 DIAMジャナス米国中小型株式ファンド	30億円	Ⓡ	✓	✓	■								
57 日本株オープン 新潮流	41億円	✓	✓	✓		76 DIAM新興国株式インデックスファンド<DC年金>	203億円	—	✓	✓									
58 日本厳選中小型株ファンド	95億円	Ⓡ	✓	✓	■	77 DIAM世界好配当株オープン(毎月決算コース) 愛称:世界配当倶楽部	145億円	✓	✓	✓									
59 日本製鉄グループ株式オープン	14億円	—	✓	✓		78 DIAM世界好配当株式ファンド(毎月決算型) 愛称:ハッピーインカム	246億円	✓	✓	✓									

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_株式

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績		商品		開示		ファンド評価結果	G グリーン評価 (詳細開示)	✓ グリーン・レッド評価以外	R レッド評価 (今回レッド評価)	
	運用実績	商品性	情報開示	商品	開示	グリーン評価					運用評価対象外
ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細
79 DIAM世界好配当株式ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジあり) 愛称:ハッピーインカム(為替ヘッジあり)	1億円	✓	✓	✓		99 たわらノーロード S&P500配当貴族	3億円	—	R	✓	
80 DIAM中国関連株オープン 愛称:チャイニーズ・エンジェル	20億円	✓	✓	✓		100 たわらノーロード 新興国株式	300億円	—	✓	✓	
81 DIAMベトナム株式ファンド 愛称:ベトナムでフォー	100億円	✓	✓	✓		101 たわらノーロード 新興国株式<ラップ専用>	187億円	—	✓	✓	
82 MHAM外国株式インデックスファンド	11億円	—	✓	✓		102 たわらノーロード 先進国株式	7,246億円	—	✓	✓	
83 MHAM米国好配当株式ファンド(年1回決算型) 為替ヘッジあり 愛称:ゴールドンルーキー	7億円	✓	✓	✓		103 たわらノーロード 先進国株式<為替ヘッジあり>	283億円	—	✓	✓	
84 MHAM米国好配当株式ファンド(年1回決算型) 為替ヘッジなし 愛称:ゴールドンルーキー	61億円	✓	✓	✓		104 たわらノーロード 先進国株式(為替ヘッジあり)<ラップ専用>	72億円	—	✓	✓	
85 MHAM米国好配当株式ファンド(毎月決算型) 為替ヘッジあり 愛称:ゴールドンルーキー	10億円	✓	✓	✓		105 たわらノーロード 先進国株式(為替ヘッジなし)<ラップ専用>	250億円	—	✓	✓	
86 MHAM米国好配当株式ファンド(毎月決算型) 為替ヘッジなし 愛称:ゴールドンルーキー	167億円	✓	✓	✓		106 フィッシャーUSマイクロ株式ファンド	137億円	✓	✓	✓	
87 One DC 新興国株式インデックスファンド	41億円	—	✓	✓		107 米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジあり> 愛称:グレート・アメリカ	20億円	✓	✓	✓	
88 One DC 先進国株式インデックスファンド	373億円	—	✓	✓		108 米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジなし> 愛称:グレート・アメリカ	227億円	✓	✓	✓	
89 One DC 米国株式(S&P500)インデックスファンド	394億円	—	✓	✓		109 米国厳選成長株集中投資ファンド Aコース(為替ヘッジあり) 愛称:新世紀アメリカ~Yes, We Can!~	2億円	✓	✓	✓	
90 One ETF 南方 中国A株 CSI500	25億円	—	✓	✓		110 米国厳選成長株集中投資ファンド Bコース(為替ヘッジなし) 愛称:新世紀アメリカ~Yes, We Can!~	59億円	✓	✓	✓	
91 One NYダウ・インデックス・ファンド	689億円	—	✓	✓		111 米国小型バリュー株ファンド Aコース(為替ヘッジあり) 愛称:アメリカン・エンジェル	6億円	✓	✓	✓	
92 Oneピュア・インド株式ファンド	2,328億円	✓	✓	✓		112 米国小型バリュー株ファンド Bコース(為替ヘッジなし) 愛称:アメリカン・エンジェル	197億円	✓	✓	✓	
93 サザンアジア・オールスター株式ファンド	41億円	R	✓	✓		113 米国割安株ファンド 愛称:ザ・バリューハンター	33億円	✓	✓	✓	
94 新光サザンアジア株式ファンド	17億円	R	✓	✓		114 マシューズ・アジア株式ファンド 愛称:パシフィック・タイガー	23億円	✓	✓	✓	
95 新成長中国株式ファンド 愛称:シャングリラ	20億円	✓	✓	✓		115 みずほエマージング株式オープン	16億円	✓	✓	✓	
96 たわらノーロード NASDAQ100	4億円	—	✓	✓		116 みずほ好配当世界株オープン	48億円	✓	✓	✓	
97 たわらノーロード NYダウ	245億円	—	✓	✓		株式/内外					
98 たわらノーロード S&P500	993億円	—	✓	✓		117 MHAM株式オープン	123億円	R	✓	✓	

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_株式

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績			商品			開示			ファンド評価結果
	運用実績	商品性	情報開示	商品性	開示	情報開示	商品性	開示	情報開示	
118	MHAMグローバル・アクティブ・オープン	25億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
119	OneグローバルESG厳選株ファンド<DC年金>	55億円	Ⓡ	✓	✓	■	■	■	■	■
120	Oneグローバル中小型長期成長株ファンド 愛称:キセキ	13億円	Ⓡ	✓	✓	■	■	■	■	■
121	Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金> 愛称:キセキ<DC年金>	25億円	Ⓡ	✓	✓	■	■	■	■	■
122	One/フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド (隔月決算・予想分配金提示型)	266億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
123	One/フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド (成長型)	1,039億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
124	Oneフォーカス ミレニアルズ	6億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
125	グローバル・オポチュニティ・パートナーズ・ファンド	842億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
126	グローバル新世代関連株式ファンド	94億円	✓	Ⓡ	✓	■	■	■	■	■
127	グローバル・セキュリティ株式ファンド(3か月決算型)	589億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
128	グローバル・セキュリティ株式ファンド(年1回決算型)	17億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
129	グローバルESGハイクオリティ成長株株式ファンド(為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(ESG)	9,974億円	ⓐ	✓	✓	■	■	■	■	■
130	グローバル・ハイクオリティ成長株株式ファンド(為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界	7,513億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
131	グローバル・ハイクオリティ成長株株式ファンド(限定為替ヘッジ) 愛称:未来の世界	588億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
132	グローバル・ハイクオリティ成長株株式ファンド(年2回決算型) (為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(年2回決算型)	1,816億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
133	グローバル・ハイクオリティ成長株株式ファンド(年2回決算型) (限定為替ヘッジ) 愛称:未来の世界(年2回決算型)	97億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
134	グローバル・ハイクオリティ成長株株式ファンド(予想分配金提示型) (為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(予想分配金提示型)	545億円	ⓐ	✓	✓	■	■	■	■	■
135	グローバル・ハイクオリティ成長株株式ファンド(予想分配金提示型) (限定為替ヘッジ) 愛称:未来の世界(予想分配金提示型)	12億円	ⓐ	✓	✓	■	■	■	■	■
136	シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(為替ヘッジなし)	12億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
137	シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(限定為替ヘッジ)	1億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
138	新興国ハイクオリティ成長株株式ファンド 愛称:未来の世界(新興国)	674億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
139	世界eコマース関連株式オープン 愛称:みらい生活	451億円	Ⓡ	✓	✓	■	■	■	■	■
140	世界株配当収益追求ファンド(価格変動抑制型) 愛称:はいとどど	2億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
141	世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジありコース	64億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
142	世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジなしコース	1,120億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
143	世界中小型株式ファンド 愛称:シャイニング・フューチャー	98億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
144	先進国ハイクオリティ成長株株式ファンド(為替ヘッジあり) 愛称:未来の世界(先進国)	56億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
145	先進国ハイクオリティ成長株株式ファンド(為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(先進国)	936億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
146	たわらノーロード 全世界株式	1,063億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
147	たわらノーロード フォーカス AI	15億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
148	たわらノーロード フォーカス 次世代通信	6億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
149	たわらノーロード フォーカス フィンテック	7億円	—	Ⓡ	✓	■	■	■	■	■
150	たわらノーロード フォーカス ロボット・テクノロジー	4億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
151	ファンドスミス・グローバル・エクイティ・ファンド	3,034億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
152	フィッシャー・グローバル・スモールキャップ・エクイティ・ファンド 愛称:ライジング・フューチャー	116億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
153	みずほサステナブルファンドシリーズー LQ・サーキュラー・エコノミー	209億円	—	✓	✓	■	■	■	■	■
154	メディカル・サイエンス・ファンド 愛称:医療の未来	438億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
155	ワールド・インフラ好配当株株式ファンド(成長型) 愛称:世界のかけ橋(成長型)	35億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■
156	ワールド・インフラ好配当株株式ファンド(毎月決算型) 愛称:世界のかけ橋(毎月決算型)	136億円	✓	✓	✓	■	■	■	■	■

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_債券

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価(詳細開示)	グリーン・レッド評価以外	レッド評価(今回レッド評価)	
								🟢 グリーン評価	— 運用評価対象外	🔴 レッド評価(前回レッド評価モニタリング中)	
ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細
債券/国内											
157	DIAM国内債券インデックスファンド<DC年金>	148億円	—	✓	✓	175	MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)	14億円	🟢	✓	✓
158	DIAM国内債券パッシブ・ファンド	374億円	—	✓	✓	176	MHAM USインカムオープン毎月決算コース(為替ヘッジなし)	41億円	🟢	✓	✓
159	DLIBJ公社債オープン(短期コース)	175億円	—	✓	✓	177	MHAM豪ドル債券ファンド(年1回決算型)	1億円	🔴	✓	✓
160	DLIBJ公社債オープン(中期コース)	335億円	✓	✓	✓	178	MHAM豪ドル債券ファンド(毎月決算型)	227億円	✓	✓	✓
161	MHAM物価連動国債ファンド 愛称:未来予想	316億円	—	✓	✓	179	One DC 先進国債券インデックスファンド	73億円	—	✓	✓
162	One DC 国内債券インデックスファンド	68億円	—	✓	✓	180	One日本企業米ドル建て債券ファンド2022-09 愛称:ドルのめぐみ2022-09	8億円	—	✓	✓
163	たわらノーロード 国内債券	243億円	—	✓	✓	181	海外国債ファンド	95億円	✓	✓	✓
164	たわらノーロード 国内債券<ラップ専用>	204億円	—	✓	✓	182	海外国債ファンド(3ヵ月決算型)	16億円	✓	✓	✓
165	日本債券ファンド	25億円	—	✓	✓	183	グローバル・ボンド・ポート(Cコース)	128億円	🔴	✓	✓
債券/海外											
166	DIAM外国債券インデックスファンド<DC年金>	169億円	—	✓	✓	184	グローバル・ボンド・ポート(Dコース)	130億円	🔴	✓	✓
167	DIAM外国債券パッシブ・ファンド	162億円	—	✓	✓	185	グローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース(為替ヘッジなし)	32億円	🔴	✓	✓
168	DIAMグローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース2 愛称:ぶんぱいくん	23億円	🔴	✓	✓	186	高金利通貨ファンド	27億円	—	✓	✓
169	DIAM高格付インカム・オープン(1年決算コース) 愛称:ハッピークローバー1年	9億円	✓	✓	✓	187	新光ブラジル債券ファンド	109億円	✓	✓	✓
170	DIAM高格付インカム・オープン(毎月決算コース) 愛称:ハッピークローバー	760億円	✓	✓	✓	188	先進国投資適格債券ファンド(為替ヘッジあり) 愛称:マイワルツ	239億円	✓	✓	✓
171	DIAM高格付インカム・オープン<DC年金> 愛称:ハッピークローバー<DC年金>	25億円	✓	✓	✓	189	たわらノーロード 外国債券(為替ヘッジあり)<ラップ専用>	249億円	—	✓	✓
172	DIAM高格付外債ファンド 愛称:トリプルエース	36億円	—	✓	✓	190	たわらノーロード 外国債券(為替ヘッジなし)<ラップ専用>	122億円	—	✓	✓
173	DIAM新興資源国債券ファンド 愛称:ラッキークローバー	29億円	—	✓	✓	191	たわらノーロード 新興国現地通貨建債券<ラップ専用>	122億円	—	✓	✓
174	MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)	6億円	✓	✓	✓	192	たわらノーロード 先進国債券	573億円	—	✓	✓
						193	たわらノーロード 先進国債券<為替ヘッジあり>	169億円	—	✓	✓
						194	ハイブリッド証券ファンド円コース	62億円	✓	✓	✓

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_債券

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (詳細開示)	グリーン・レッド評価以外	レッド評価 (今回レッド評価)	
								🟢 グリーン評価	— 運用評価対象外	🔴 レッド評価 (前回レッド評価モニタリング中)	
ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細
195 ハイブリッド証券ファンド豪ドルコース	9億円	✓	✓	✓		215 モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (毎月決算型) (為替ヘッジなし)	22億円	✓	✓	✓	
196 ハイブリッド証券ファンドブラジルリアルコース	32億円	✓	✓	✓		216 ルーミス・グローバル債券ファンド (毎月決算型)	13億円	✓	✓	✓	
197 ハイブリッド証券ファンド米ドルコース	10億円	✓	✓	✓		217 ルーミス米国投資適格債券ファンド [年2回決算型]	213億円	—	✓	✓	
198 フロンティア・ワールド・インカム・ファンド	153億円	🟢	✓	✓	■	218 ルーミス米国投資適格債券ファンド [毎月決算型]	835億円	✓	✓	✓	
199 フロンティア・ワールド・インカム・ファンド (年1回決算型)	6億円	🟢	✓	✓	■	債券/内外					
200 米国ハイイールド債券ファンド 円コース	24億円	✓	✓	✓		219 DIAM円ストラテジー債券ファンド 愛称:円クルーズ	5億円	✓	✓	✓	
201 米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース	90億円	✓	✓	✓		220 DIAM毎月分配債券ファンド 愛称:円パワーズ	7億円	✓	✓	✓	
202 米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース	61億円	✓	✓	✓		221 One円建て債券ファンド2021-09 愛称:円結び 2021-09	86億円	—	✓	✓	
203 米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース	98億円	✓	✓	✓		222 One円建て債券ファンドII 2021-12 愛称:円結びII 2021-12	72億円	—	✓	✓	
204 米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース	2億円	✓	✓	✓		223 One円建て債券ファンドII 2022-03 愛称:円結びII 2022-03	122億円	—	✓	✓	
205 みずほUSハイイールドオープンAコース (為替ヘッジあり)	102億円	✓	✓	✓		224 One円建て債券ファンドII 2022-06 愛称:円結びII 2022-06	122億円	—	✓	✓	
206 みずほUSハイイールドオープンBコース (為替ヘッジなし)	585億円	✓	✓	✓		225 One円建て債券ファンドII 2022-09 愛称:円結びII 2022-09	110億円	—	✓	✓	
207 みずほUSハイイールドオープン (年1回決算型) 為替ヘッジあり	21億円	✓	✓	✓		226 One円建て債券ファンドII 2023-01 愛称:円結びII 2023-01	75億円	—	✓	✓	
208 みずほUSハイイールドオープン (年1回決算型) 為替ヘッジなし	698億円	✓	✓	✓		227 One円建て債券ファンドIII 2023-03 愛称:円結びIII 2023-03	124億円	—	✓	✓	
209 みずほUSハイイールドファンド<DC年金>	106億円	✓	✓	✓		228 One円建て債券ファンドIII 2023-07 愛称:円結びIII 2023-07	116億円	—	✓	✓	
210 みずほ豪ドル債券ファンド 愛称:コアラの森	351億円	✓	✓	✓		229 One円建て債券ファンドIII 2023-09 愛称:円結びIII 2023-09	142億円	—	✓	✓	
211 みずほ豪ドル債券ファンド (年1回決算型) 愛称:コアラの森	26億円	✓	✓	✓		230 One円建て債券ファンドIII 2024-03 愛称:円結びIII 2024-03	69億円	—	✓	✓	
212 モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (年1回決算型) (為替ヘッジあり)	14億円	✓	✓	✓		231 One円建て債券ファンドIII 2024-07 愛称:円結びIII 2024-07	45億円	—	✓	✓	
213 モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (年1回決算型) (為替ヘッジなし)	50億円	✓	✓	✓		232 Oneグローバル・ターゲット利回り債券ファンド 2023-06 (限定追加型)	249億円	—	✓	✓	
214 モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (毎月決算型) (為替ヘッジあり)	4億円	✓	✓	✓		233 Oneグローバル・ターゲット利回り債券ファンド 2023-12 (限定追加型)	188億円	—	✓	✓	

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_債券、REIT

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (詳細開示)	グリーン・レッド評価以外	レッド評価 (今回レッド評価)	
								G グリーン評価	— 運用評価対象外	R レッド評価 (前回レッド評価モニタリング中)	
ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細
234 Oneグローバル・ターゲット利回り投資適格債券ファンド 2023-12 (限定追加型) 愛称:イールドOne2023-12	139億円	—	✓	✓		253 MHAM J-REITインデックスファンド<DC年金>	151億円	—	✓	✓	
235 Oneニッポン債券オープン	57億円	✓	✓	✓		254 MHAM J-REITアクティブオープン年1回決算コース 愛称:物件満彩(年1回決算コース)	28億円	R	✓	✓	■
236 PIMCOストラテジック・インカム・ファンド(為替ヘッジあり)	51億円	—	✓	✓		255 MHAM J-REITアクティブオープン毎月決算コース 愛称:物件満彩	118億円	R	✓	✓	■
237 PIMCOストラテジック・インカム・ファンド(為替ヘッジなし)	263億円	—	✓	✓		256 MHAM J-REITアクティブファンド<DC年金>	24億円	R	✓	✓	■
238 USストラテジック・インカム・ファンドAコース(為替ヘッジあり) 愛称:債券王	10億円	✓	✓	✓		257 MHAM Jリートアクティブファンド(隔月決算型) 愛称:Jインカム(隔月決算型)	3億円	—	✓	✓	
239 USストラテジック・インカム・ファンドBコース(為替ヘッジなし) 愛称:債券王	76億円	G	✓	✓		258 MHAM Jリートアクティブファンド(毎月決算型) 愛称:Jインカム	115億円	R	✓	✓	■
240 債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ)	9億円	R	✓	✓	■	259 One ETF 東証REIT指数	1,434億円	—	✓	✓	
241 みずほグローバル・ターゲット利回り債券ファンド 2022-06 (限定追加型)	241億円	—	✓	✓		260 One DC 国内リートインデックスファンド	51億円	—	✓	✓	
242 みずほグローバル・ターゲット利回り債券ファンド 2023-01 (限定追加型)	128億円	—	✓	✓		261 新光J-REITオープン	508億円	—	✓	✓	
REIT/国内											
243 DIAM J-REITアクティブファンド(毎月決算型) 愛称:ハッピー・オーナー	32億円	✓	✓	✓		262 新光J-REITオープン(年2回決算型)	15億円	—	✓	✓	
244 DIAM J-REITオープン(1年決算コース) 愛称:オーナーズ・インカム1Y	120億円	✓	✓	✓		263 たわらノーロード 国内リート	138億円	—	✓	✓	
245 DIAM J-REITオープン(2カ月決算コース) 愛称:オーナーズ・インカム2M	46億円	✓	✓	✓		264 たわらノーロード 国内リート<ラップ専用>	120億円	—	✓	✓	
246 DIAM J-REITオープン(毎月決算コース) 愛称:オーナーズ・インカム	420億円	✓	✓	✓		265 通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 円コース	17億円	R	R	✓	■ ■
247 J-REITパッケージ	26億円	—	✓	✓		266 通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 豪ドルコース	15億円	R	✓	✓	■
248 Jリートインデックスファンド(DC)	2億円	—	✓	✓		267 通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) ブラジルリアルコース	59億円	R	✓	✓	■
249 DIAMストラテジックJ-REITファンド	177億円	✓	✓	✓		268 通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 米ドルコース	37億円	R	✓	✓	■
250 MHAM J-REITインデックスファンド(隔月決算型) 愛称:ビルオーナー(隔月決算型)	0.6億円	—	✓	✓		269 みずほ J-REIT ファンド	267億円	R	✓	✓	■
251 MHAM J-REITインデックスファンド(年1回決算型) 愛称:ビルオーナー(年1回決算型)	64億円	—	✓	✓		270 みずほ J-REIT ファンド(年1回決算型)	42億円	R	✓	✓	■
252 MHAM J-REITインデックスファンド(毎月決算型) 愛称:ビルオーナー	605億円	—	✓	✓		271 りそなJリート・アクティブ・オープン 愛称:日本のツボ	458億円	R	✓	✓	■

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_REIT、バランス

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (詳細開示)	グリーン・レッド評価以外	レッド評価 (今回レッド評価)	
								G グリーン評価	— 運用評価対象外	R レッド評価 (前回レッド評価モニタリング中)	
REIT/海外							バランス/国内				
272	DIAMオーストラリアリートオープン	愛称:A-REIT	112億円	✓	✓	✓					
273	DIAM外国リートインデックスファンド<DC年金>	愛称:世界不動産物語	9億円	—	✓	✓					
274	DIAM世界リートインデックスファンド(隔月分配型)		17億円	—	R	✓					
275	DIAM世界リートインデックスファンド(毎月分配型)		1,695億円	—	R	✓					
276	DIAM ワールドREITアクティブファンド(毎月決算型)	愛称:世界のハッピーオーナー	12億円	R	✓	✓					
277	DIAM ワールドREITアクティブファンド<DC年金>	愛称:世界のハッピーオーナーDC	14億円	R	✓	✓					
278	DIAM ワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース)	愛称:世界家主倶楽部	499億円	R	✓	✓					
279	One DC 先進国リートインデックスファンド		73億円	—	✓	✓					
280	新光 US-REIT オープン	愛称:ゼウス	3,653億円	R	✓	✓					
281	新光 US-REIT オープン(隔月決算型)	愛称:ゼウス(隔月決算型)	3億円	—	✓	✓					
282	新光 US-REIT オープン(年1回決算型)	愛称:ゼウスII(年1回決算型)	127億円	R	✓	✓					
283	たわらノーロード 先進国リート		345億円	—	✓	✓					
284	たわらノーロード 先進国リート<為替ヘッジあり>		5億円	—	✓	✓					
285	たわらノーロード 先進国リート(為替ヘッジなし)<ラップ専用>		95億円	—	✓	✓					
REIT/内外							バランス/海外				
286	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年1回決算型)(為替ヘッジあり)		3億円	—	✓	✓					
287	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年1回決算型)(為替ヘッジなし)		86億円	—	✓	✓					
288	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年4回決算型)(為替ヘッジあり)		4億円	—	✓	✓					
289	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年4回決算型)(為替ヘッジなし)		54億円	—	✓	✓					
290	MHAMスリーウェイオープン		61億円	✓	✓	✓					
291	日本3資産ファンド 安定コース	愛称:円のめぐみ	25億円	—	✓	✓					
292	日本3資産ファンド 成長コース	愛称:円のめぐみ	30億円	—	✓	✓					
293	日本3資産ファンド(年1回決算型)	愛称:円のめぐみ(年1回決算型)	0.9億円	—	✓	✓					
294	DIAM世界3資産オープン(毎月決算型)	愛称:ハッピーハーモニー	16億円	—	✓	✓					
295	DIAM世界インカム・オープン(毎月決算コース)	愛称:世界三重奏	32億円	—	✓	✓					
296	ゴールドマン・サックス社債/マクロアロケーター戦略ファンド2022-09		957億円	—	✓	✓					
297	マクロアロケーター戦略指数参照型ゴールドマン・サックス社債ファンド2022-12	愛称:おまもりOne2022-12	111億円	—	✓	✓					
298	マクロアロケーター戦略指数参照型ゴールドマン・サックス社債ファンド2023-03	愛称:おまもりOne2023-03	10億円	—	✓	✓					
299	ワールドアセットバランス(基本コース)	愛称:ワールドOne	43億円	R	✓	✓					
300	ワールドアセットバランス(リスク抑制コース)	愛称:ワールドOne	123億円	R	✓	✓					
バランス/内外							バランス/内外				
301	4資産分散投資・スタンダード<DC年金>	愛称:わたしへの贈りもの	162億円	—	✓	✓					
302	4資産分散投資・ミドルクラス<DC年金>	愛称:わたしへの贈りもの	127億円	—	✓	✓					
303	4資産分散投資・ハイクラス<DC年金>	愛称:わたしへの贈りもの	170億円	—	✓	✓					
304	9資産分散投資・スタンダード<DC年金>	愛称:わたしへの贈りもの	226億円	—	✓	✓					
305	DIAM 8資産バランスファンドN<DC年金>		178億円	—	✓	✓					
306	DIAM DC 8資産バランスファンド(新興国10)	愛称:宝船	123億円	—	✓	✓					

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績			商品			開示			ファンド評価結果	グリーン評価 (詳細開示)			グリーン・レッド評価以外			レッド評価 (今回レッド評価)		
	運用実績	商品性	情報開示	商品	商品性	開示	情報開示	グリーン評価	運用評価対象外		レッド評価 (前回レッド評価モニタリング中)								
ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク	純資産総額	実績	商品	開示	詳細								
307 DIAM DC 8資産バランスファンド(新興国20) 愛称:宝船	105億円	—	✓	✓		327 Oneグローバル最適化バランス(成長型)<ラップ向け>	8億円	—	✓	✓									
308 DIAM DC 8資産バランスファンド(新興国30) 愛称:宝船	142億円	—	✓	✓		328 Oneグローバルバランス	18億円	✓	✓	✓									
309 DIAM DC バランス30インデックスファンド	60億円	—	✓	✓		329 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%) 愛称:THE GRIPS 2%	0.1億円	Ⓡ	✓	✓	■								
310 DIAM DC バランス50インデックスファンド	118億円	—	✓	✓		330 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 2%<DC年金>	5億円	Ⓡ	✓	✓	■								
311 DIAM DC バランス70インデックスファンド	101億円	—	✓	✓		331 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク4%) 愛称:THE GRIPS 4%	4億円	Ⓡ	✓	✓	■								
312 DIAM/パッシブ資産分散ファンド 愛称:三本の矢	32億円	—	✓	✓		332 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク4%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 4%<DC年金>	7億円	Ⓡ	✓	✓	■								
313 DIAM/バランス・ファンド<DC年金>1安定型	230億円	—	✓	✓		333 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク6%) 愛称:THE GRIPS 6%	4億円	Ⓡ	✓	✓	■								
314 DIAM/バランス・ファンド<DC年金>2安定・成長型	528億円	—	✓	✓		334 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク6%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 6%<DC年金>	18億円	Ⓡ	✓	✓	■								
315 DIAM/バランス・ファンド<DC年金>3成長型	490億円	—	✓	✓		335 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%) 愛称:THE GRIPS 8%	18億円	Ⓡ	Ⓡ	✓	■ ■								
316 DIAMライフサイクル・ファンド<DC年金>1安定型	115億円	—	✓	✓		336 One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 8%<DC年金>	22億円	Ⓡ	✓	✓	■								
317 DIAMライフサイクル・ファンド<DC年金>2安定・成長型	358億円	—	✓	✓		337 One世界分散セレクト(Aコース) 愛称:100年ギフト	20億円	✓	✓	✓									
318 DIAMライフサイクル・ファンド<DC年金>3成長型	370億円	—	✓	✓		338 One世界分散セレクト(Bコース) 愛称:100年ギフト	33億円	✓	✓	✓									
319 MHAM6資産バランスファンド 愛称:六花選	38億円	—	✓	✓		339 One世界分散セレクト(Cコース) 愛称:100年ギフト	45億円	✓	✓	✓									
320 MHAM6資産バランスファンド(年1回決算型) 愛称:六花選(年1回決算型)	4億円	—	✓	✓		340 One ターゲットリターン・ファンド(4%コース)	9億円	✓	Ⓡ	✓	■								
321 MHAMトリニティオープン(毎月決算型) 愛称:ファンド3兄弟	63億円	—	✓	✓		341 インカムビルダー(年1回決算型)為替ヘッジなし	35億円	✓	✓	✓									
322 MHAMライフ ナビゲーション 2030	21億円	—	✓	✓		342 インカムビルダー(年1回決算型)限定為替ヘッジ	2億円	✓	✓	✓									
323 MHAMライフ ナビゲーション 2040	23億円	—	✓	✓		343 インカムビルダー(年1回決算型)世界通貨分散コース	8億円	✓	✓	✓									
324 MHAMライフ ナビゲーション 2050	6億円	—	✓	✓		344 インカムビルダー(毎月決算型)為替ヘッジなし	33億円	✓	✓	✓									
325 MHAMライフ ナビゲーション インカム	4億円	—	✓	✓		345 インカムビルダー(毎月決算型)限定為替ヘッジ	2億円	✓	✓	✓									
326 Oneグローバル最適化バランス(安定型)<ラップ向け>	2億円	—	✓	✓		346 インカムビルダー(毎月決算型)世界通貨分散コース	22億円	✓	✓	✓									

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績			商品			開示			ファンド評価結果	グリーン評価 (詳細開示)			グリーン・レッド評価以外			レッド評価 (今回レッド評価)		
	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価	グリーン・レッド評価以外	レッド評価 (今回レッド評価)		グリーン評価	グリーン・レッド評価以外	レッド評価 (今回レッド評価)	グリーン評価	グリーン・レッド評価以外	レッド評価 (今回レッド評価)			
347	尾瀬紀行	21億円	—	✓	✓														
348	クルーズコントロール	70億円	✓	✓	✓														
349	グローバル・アロケーション・オープンAコース (年1回決算・為替ヘッジなし)	137億円	ⓐ	✓	✓														
350	グローバル・アロケーション・オープンBコース (年4回決算・為替ヘッジなし)	541億円	ⓐ	✓	✓														
351	グローバル・アロケーション・オープンCコース (年1回決算・限定為替ヘッジ)	10億円	✓	✓	✓														
352	グローバル・アロケーション・オープンDコース (年4回決算・限定為替ヘッジ)	9億円	✓	✓	✓														
353	グローバル・アロケーション・ファンド 毎月決算・為替ヘッジなしコース(目標払出し型) 愛称:世界街道	184億円	ⓐ	✓	✓														
354	グローバル・アロケーション・ファンド 毎月決算・限定為替ヘッジコース(目標払出し型) 愛称:世界街道	5億円	✓	✓	✓														
355	グローバルドライブ(3ヵ月決算型)為替ヘッジなし	37億円	ⓐ	✓	✓														
356	グローバルドライブ(3ヵ月決算型)限定為替ヘッジ	1億円	✓	✓	✓														
357	グローバルドライブ(年1回決算型)為替ヘッジなし	21億円	ⓐ	✓	✓														
358	グローバルドライブ(年1回決算型)限定為替ヘッジ	1億円	✓	✓	✓														
359	コア資産形成ファンド 愛称:ビギナーズ ラップ	3億円	ⓐ	✓	✓														
360	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2018-07	146億円	—	✓	✓														
361	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2018-09 愛称:プライムOne2018-09	413億円	—	✓	✓														
362	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2018-10 愛称:プライムOne2018-10	78億円	—	✓	✓														
363	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2018-11 愛称:プライムOne2018-11	136億円	—	✓	✓														
364	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2018-12 愛称:プライムOne2018-12	92億円	—	✓	✓														
365	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-01 愛称:プライムOne2019-01	52億円	—	✓	✓														
366	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-02 愛称:プライムOne2019-02	72億円	—	✓	✓														
367	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-03 愛称:プライムOne2019-03	70億円	—	✓	✓														
368	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-04 愛称:プライムOne2019-04	66億円	—	✓	✓														
369	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-05 愛称:プライムOne2019-05	13億円	—	✓	✓														
370	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-06 愛称:プライムOne2019-06	111億円	—	✓	✓														
371	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-07 愛称:プライムOne2019-07	245億円	—	✓	✓														
372	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-09 愛称:プライムOne2019-09	94億円	—	✓	✓														
373	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-10 愛称:プライムOne2019-10	22億円	—	✓	✓														
374	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-11 愛称:プライムOne2019-11	61億円	—	✓	✓														
375	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2019-12 愛称:プライムOne2019-12	120億円	—	✓	✓														
376	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2020-01 愛称:プライムOne2020-01	19億円	—	✓	✓														
377	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2020-03 愛称:プライムOne2020-03	223億円	—	✓	✓														
378	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2020-05 愛称:プライムOne2020-05	56億円	—	✓	✓														
379	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2020-06 愛称:プライムOne2020-06	37億円	—	✓	✓														
380	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2020-07 愛称:プライムOne2020-07	38億円	—	✓	✓														
381	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2020-09 愛称:プライムOne2020-09	75億円	—	✓	✓														
382	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2020-10 愛称:プライムOne2020-10	6億円	—	✓	✓														
383	ゴールドマン・サックス社債/国際分散投資戦略ファンド2022-05 愛称:プライムOne2022-05	5億円	—	✓	✓														
384	新光7資産バランスファンド 愛称:七重奏	44億円	✓	✓	✓														
385	世界8資産ファンド 安定コース 愛称:世界組曲	28億円	—	✓	✓														
386	世界8資産ファンド 成長コース 愛称:世界組曲	48億円	—	✓	✓														

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績			商品			開示			ファンド評価結果	グリーン評価 (詳細開示)			グリーン・レッド評価以外			レッド評価 (今回レッド評価)		
	運用実績	商品性	情報開示	純資産総額	実績	商品	開示	詳細	グリーン評価		運用評価対象外	レッド評価 (前回レッド評価モニタリング中)							
387	世界8資産ファンド 分配コース	愛称:世界組曲	154億円	—	✓	✓													
388	世界8資産ファンド<DC年金>	愛称:世界組曲<DC年金>	73億円	—	✓	✓													
389	世界8資産リスク分散バランスファンド(目標払出し型)	愛称:しあわせのしずく	23億円	Ⓡ	✓	✓	■												
390	ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジあり>		7億円	✓	✓	✓													
391	ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジなし>		26億円	✓	✓	✓													
392	たわらノーロード 最適化バランス(安定型)		1億円	✓	✓	✓													
393	たわらノーロード 最適化バランス(安定成長型)		16億円	✓	✓	✓													
394	たわらノーロード 最適化バランス(成長型)		3億円	✓	✓	✓													
395	たわらノーロード 最適化バランス(積極型)		5億円	✓	✓	✓													
396	たわらノーロード 最適化バランス(保守型)		0.8億円	—	✓	✓													
397	たわらノーロード スマートグローバルバランス(安定型)		101億円	✓	✓	✓													
398	たわらノーロード スマートグローバルバランス(安定成長型)		203億円	✓	✓	✓													
399	たわらノーロード スマートグローバルバランス(成長型)		131億円	✓	✓	✓													
400	たわらノーロード スマートグローバルバランス(積極型)		156億円	✓	✓	✓													
401	たわらノーロード スマートグローバルバランス(保守型)		3億円	—	✓	✓													
402	たわらノーロード バランス(8資産均等型)		846億円	—	✓	✓													
403	たわらノーロード バランス(堅実型)		61億円	—	✓	✓													
404	たわらノーロード バランス(積極型)		302億円	—	✓	✓													
405	たわらノーロード バランス(標準型)		296億円	—	✓	✓													
406	投資のソムリエ		2,878億円	Ⓡ	✓	✓	■												
407	投資のソムリエ<DC年金>		411億円	Ⓡ	✓	✓	■												
408	投資のソムリエ<DC年金>リスク抑制型		487億円	✓	✓	✓													
409	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2035)		104億円	✓	✓	✓													
410	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2040)		38億円	✓	✓	✓													
411	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2045)		34億円	✓	✓	✓													
412	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2050)		20億円	✓	✓	✓													
413	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2055)		18億円	✓	✓	✓													
414	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2060)		12億円	✓	✓	✓													
415	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2065)		3億円	✓	✓	✓													
416	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2070)		0.01億円	—	✓	✓													
417	動的パッケージファンド<DC年金>		9億円	Ⓞ	✓	✓													
418	バランス物語30(安定型)		13億円	—	✓	✓													
419	バランス物語50(安定・成長型)		10億円	—	✓	✓													
420	バランス物語70(成長型)		6億円	—	✓	✓													
421	マスターズ・マルチアセット・ファンド(安定型)	愛称:みらいへの羅針盤(安定型)	0.009億円	—	✓	✓													
422	マスターズ・マルチアセット・ファンド(積極型)	愛称:みらいへの羅針盤(積極型)	0.1億円	—	✓	✓													
423	マスターズ・マルチアセット・ファンド(バランス型)	愛称:みらいへの羅針盤(バランス型)	0.1億円	—	✓	✓													
424	マネックス資産設計ファンド エボリューション		21億円	Ⓞ	✓	✓	■												
425	マネックス資産設計ファンド<育成型>		192億円	✓	✓	✓													
426	マネックス資産設計ファンド<隔月分配型>		4億円	✓	✓	✓													

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス、その他

(ファンド名は原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2025年3月31日時点

チェック項目	実績			商品			開示			ファンド評価結果		
	運用実績	商品性	情報開示	実績	商品	開示	詳細	結果	対象	モニタリング		
427	みらいのサイフ(アドバンスコース)	5億円	Ⓡ	✓	✓	■						
428	みらいのサイフ(エントリーコース)	9億円	Ⓡ	✓	✓	■						
429	みらいのサイフ(ベーシックコース)	9億円	Ⓡ	✓	✓	■						
430	リスクコントロール世界資産分散ファンド 愛称:マイスタート	401億円	✓	✓	✓							
431	リスク抑制世界8資産バランスファンド 愛称:しあわせの一步	1,171億円	Ⓡ	✓	✓	■						
432	リスク抑制世界8資産バランスファンド(DC) 愛称:しあわせの一步(DC)	5億円	Ⓡ	✓	✓	■						
その他/海外												
433	DIAMコモディティパッシブ・ファンド	71億円	—	✓	✓							
434	Oneゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)<ラップ専用>	132億円	—	✓	✓							
435	ドルマネーファンド	54億円	✓	✓	Ⓡ	■						
436	バンクローン・ファンド(ヘッジあり)	9億円	✓	✓	✓							
437	バンクローン・ファンド(ヘッジあり/年1回決算型)	1億円	✓	✓	✓							
438	バンクローン・ファンド(ヘッジなし)	20億円	✓	✓	✓							
439	バンクローン・ファンド(ヘッジなし/年1回決算型)	2億円	✓	✓	✓							

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

個別ファンド評価(レッド評価)

Ⓜ 改善事項あり(レッド評価)のサマリー

評価項目 運用実績

- 運用実績が他社の同一カテゴリーファンドと比較して下位に位置するレッド評価ファンドは合計53ファンド
- 53ファンドの内訳は、株式型14ファンド、債券型6ファンド、REIT型15ファンド、バランス型18ファンド

評価項目 商品性

- 商品性の観点で改善が必要なレッド評価ファンドは合計10ファンド
- 10ファンドの内訳は株式型6ファンド、REIT型3ファンド、バランス型1ファンド

評価項目 情報開示

- 情報開示の観点で改善が必要なレッド評価ファンドはなし

<ファンド評価結果の個別ページにおけるご留意事項>

- 本資料では、同一シリーズや同一運用戦略に分類されるファンドを「同種ファンド」として扱います。
(決算頻度や分配方針、為替ヘッジの有無、通貨コースなどに違いがあっても同一の運用戦略にもとづいて運用される場合は、「同種ファンド」とします。)
- 次ページ以降ページ左上のタイトルには、同種ファンド内で一番残高が大きいファンドの名称を記載しています。
- 次ページ以降の「ファンドの概要」において記載する投資対象は、直接投資または、各ファンドが外国籍投信やマザーファンド等を通じて実質的に投資する資産を指します。
- 次ページ以降の各種データは、2025年3月31日時点のものです。

® 運用実績

新興企業日本株ファンド(資産成長型)

(運用:株式運用部)

P22～P37においては今回レッド評価の®ファンドを記載。

P38～P42においては前回(2024年9月末基準)レッド評価でモニタリング中の®ファンドを記載。

ファンド名	設定日	純資産	HP
新興企業日本株ファンド(資産成長型)	2018/5/18	15億円	■

ファンドの概要

- 国内の新興企業株式を主要投資対象とします。
- 優れた経営者のもとで、新しいビジネスモデルと経営戦略から付加価値の高い新商品を生み出すと考える“新興企業”を選定し、トップダウンアプローチも活用して、相場局面を考慮した業種・銘柄選択・投資比率を決定します。

運用実績に関する課題認識

- 米国を中心に世界的な長期金利の上昇、高止まり局面が続く市場環境のもと、成長性に着目した中小型銘柄への投資が大型株対比で不利な局面が続きました。
- このような市場環境において、サービス業、情報・通信業に属する高成長が期待された中小型銘柄の保有比率を高めていたことが、相対的な出遅れ要因となりました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	7.5%	34.6%	3.1%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 社会課題に挑む経営者や組織、テクノロジーを中心とした企業への投資を通じた運用を継続します。
- 目先の利益の多寡ではなく、長期での企業価値創出力に着眼点を置いた銘柄選別を行い、保有銘柄の精査及び新規銘柄への投資を進めます。
- 現在の運用方針を継続しつつ、市場環境の変化有無も踏まえ、銘柄入れ替えを含めた選別投資を進め、運用実績の改善を図って行きます。

④ 運用実績

DIAMジャナス米国中小型株式ファンド

(運用:マルチマネジャー株式会社)

ファンド名	設定日	純資産	HP
DIAMジャナス米国中小型株式ファンド	2014/8/15	30億円	

ファンドの概要

- 米国の中小型株式を主要投資対象とします。
- マザーファンドの運用にあたっては、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・US・エルエルシーに株式等の運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 半導体銘柄を中心に一部の大型ハイテック株が上昇する市場環境のもと、中小型銘柄のパフォーマンスが相対的に劣化する状況が続きました。
- 株式市場の上昇相場において、バリュエーション規律の順守や、安定したキャッシュフロー創出力および持続可能な成長性を持つ高クオリティ銘柄を重視した結果、パフォーマンスの出遅れ要因となりました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	19.0%	121.3%	201.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 個別企業に対する徹底したファンダメンタル分析に基づき、差別化されたビジネスモデルや持続可能な競争優位性、規律ある経営陣などを有する成長企業への投資を継続します。
- 足元ではインフレの高止まりが意識されるなか、強固な財務基盤や高い資本利益率を持つ高クオリティ銘柄の選好が奏功し、パフォーマンスは改善傾向にあり、今後も現在の運用方針を継続する方針です。

④ 運用実績

サザンアジア・オールスター株式ファンド

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
サザンアジア・オールスター株式ファンド	2007/1/31	41億円	■
新光サザンアジア株式ファンド	2010/2/26	17億円	■

ファンドの概要

- 中国*1ならびに東南アジア*2のサービス分野に関連する企業の株式に投資します。
- 中国の株式はアセットマネジメントOne株式会社が運用を行い、東南アジアの株式は東京海上アセットマネジメント株式会社と、シンガポールを拠点とするTokio Marine Asset Management International Pte. Ltd. が共同で運用を行います。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*1 主として香港、マカオなどの華南地域

*2 シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど

運用実績に関する課題認識

- 運用方針に基づき、地域としては中国南部と東南アジア、業種としてはサービス関連分野の企業に投資を行ってきましたが、アジア株式市場ではインド市場が好調だったなか、投資対象地域のパフォーマンスが劣後しました。
- 香港市場に上場する財務体質が優良な企業を中心とした銘柄を保有するなか、2024年以降の中国景気の底打ち期待で中国株が反発する一方、保有する香港株のパフォーマンスが相対的に出遅れました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:サザンアジア・オールスター株式ファンド)

	3年	5年	設定来
騰落率	5.6%	40.0%	62.6%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 人口動態や産業の蓄積度合いから、中国南部および東南アジア地域のサービス関連分野は高い成長が見込める分野と考えています。
- ファンドの運用方針を踏まえた上で、これまでよりも短期的な業績見通しや株価のアップサイドポテンシャルも重視した銘柄を厳選します。具体的には、メディア・インターネットをはじめとした業種や中小型株式などにも投資対象を広げることで、パフォーマンス向上につなげます。

® 運用実績

MHAM株式オープン

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
MHAM株式オープン	1976/9/17	123億円	

ファンドの概要

- 国内の優良成長株を中心に投資しつつ、純資産総額の30%を上限に国外の株式にも投資します。
- 株式の機動的な売買による収益の追求と、銘柄の選択を重視した運用を行います。
- 外貨建資産に対しては、為替変動リスクの低減を図るために為替ヘッジを活用します。

運用実績に関する課題認識

- 優良成長株を中心に投資を行う当ファンドは、バリュー株が相対的に優位な市場環境が続かなか劣後しました。
- 国内株では個別企業の成長性評価を積み上げた結果として、情報・通信業やサービス業の保有比率を高めていたこと、特に、両業種での中小型株の不振がマイナスに影響しました。
- 海外株はハイテク関連を中心に投資しました。3年・5年の期間では大幅なプラス寄与となりましたが、2025年1-3月期は、半導体等ハイテク関連株が下落した影響を大きく受けました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	1999/1/4~
騰落率	19.2%	89.9%	463.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 国内株への投資にあたっては、組入れ銘柄における成長分野の拡大、中小型株の個別精査を進めつつ、業種や規模のリスクコントロールを適切に行います。
- 海外株については、ハイテク関連以外の成長分野においても、日本企業以上に投資魅力度の高い銘柄を選別し、投資を検討します。
- 内外株式ともに、成長性に加えて、株価の割安性に注意を払った機動的な売買を実施することで、パフォーマンス改善を図ります。

® 運用実績

OneグローバルESG厳選株ファンド<DC年金>

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
OneグローバルESG厳選株ファンド<DC年金>	2020/6/5	55億円	

ファンドの概要

- 世界各国の株式を主要投資対象とします。
- 企業のESG*への取り組みや、財務面での安定性等について定量・定性の両面から絞り込み、株価の割安面・市場環境を勘案しつつ厳選して投資を行います。
- 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*「ESG」とは、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の略称です。

運用実績に関する課題認識

- 社会課題解決への貢献やESGへの取り組み、キャッシュフロー創出力の高さ等を評価できる企業へ投資するなか、ESG投資への注目が加速した反動を受ける形で、関連企業の株価が全体的に振るわず、2022年のパフォーマンスが伸び悩みました。
- その後、グローバル株式市場において半導体をはじめとする人工知能(AI)関連企業の株価上昇が相場全体をけん引するなか、本戦略で組み入っていたESGに対する評価が高い銘柄のパフォーマンスが全体的に出遅れました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	19.3%	—	69.3%
運用実績評価	下位	—	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 企業の社会課題解決への貢献やESGへの取り組みに加え、キャッシュフロー創出力の高さを有することは長期的な企業価値向上の要素と考えており、そうした企業への投資を通じた運用を継続します。
- ESG対応の観点だけでなく、中長期的な企業価値向上と株価パフォーマンス面でのアップサイドも含めた銘柄選別を行い、従来よりも投資対象となる地域・業種を広げることで、パフォーマンス向上に取り組めます。

® 運用実績

Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金>

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金>	2019/5/30	25億円	
Oneグローバル中小型長期成長株ファンド	2020/8/17	13億円	

ファンドの概要

- 世界各国の中小型株式を主要投資対象とします。
- 外部環境の変化に高い耐性を持ち、自助努力による長期的な成長を続けることが期待できる“ハイクオリティ”企業に着目します。
- 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 幅広いエンドマーケットで自助努力により長期的な成長を続けることが期待できる“ハイクオリティ”企業への投資を行う中、2022年にそれまで相場のけん引役だった成長株への期待・投資が反転し、幅広く売られたことがパフォーマンスの重石となりました。
- その後、グローバル株式市場が一部の超大型ハイテック株や人工知能(AI)関連株をはじめとするテーマ株主導で上昇するなか、特定のテーマに依存せず、エンドマーケットを分散した形で中小型株に投資する本戦略は、相対的に出遅れる結果となりました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金>)

	3年	5年	設定来
騰落率	14.6%	94.8%	84.8%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 個別企業のクオリティに基づいた成長の継続性・安定性にフォーカスした銘柄調査のフレームワークを重視し、中長期的な業績成長の確信度が高い中小型株への投資を継続します。
- 基本的な銘柄選定のスタンスに変更はありませんが、これまでよりも短期的な業績の透明性や株価のアップサイドポテンシャルも重視し銘柄を厳選することで、パフォーマンスの向上につなげる方針です。

® 運用実績

世界eコマース関連株式オープン

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
世界eコマース関連株式オープン	2017/9/7	451億円	

ファンドの概要

- 世界各国のeコマース(電子商取引)*をはじめとした、新たな消費関連サービスの成長から恩恵を受けると判断される消費関連企業の株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、アセットマネジメントOne U.S.A.・インクの投資助言を活用します。
- 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*当ファンドでは、インターネット等を通じて商品やサービスの売買を行うことをeコマース(電子商取引)といいます

運用実績に関する課題認識

- eコマースから恩恵を受ける企業へ投資するなかで、2020～2021年のコロナ禍環境においてeコマースの普及が加速した反動から、2022年は保有する関連銘柄の株価が全体的に伸び悩みました。
- その後、グローバル株式市場で半導体をはじめとする人工知能(AI)関連企業の株価上昇が相場全体を牽引するなか、保有するeコマース関連企業のパフォーマンスが出遅れる形となりました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	20.0%	117.1%	141.7%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- eコマースの普及率は世界的に上昇を続けており、中長期での成長が期待できるテーマとの認識のもと、恩恵を受ける企業への投資を通じた運用を継続します。
- 現在保有している企業の精査・厳選とともに、地域や業種を広げ、新規アイデアの発掘や関連銘柄への投資を通じてテーマの成長性を享受することで、パフォーマンスの向上に取り組めます。

® 運用実績

MHAM豪ドル債券ファンド(年1回決算型)

(運用:マルチマネジャー債券部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
MHAM豪ドル債券ファンド(年1回決算型)	2013/8/19	1億円	■

ファンドの概要

- オーストラリアの信用力の高い公社債(豪ドル建て)を主要投資対象とし、ベンチマークのブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックス(為替ノーヘッジ・円換算ベース)を上回る運用成果を目指します。
- オーストラリアの公社債の運用指図に係る権限をマッコーリー・インベストメント・マネジメント・グローバル・リミテッドに委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 中長期的な金利低下および国債と社債との金利差拡大を見込み、対ベンチマークでデュレーションを長期化し、クレジットリスクを抑制する投資戦略を取りました。結果として、社債をオーバーウェイトしたことによる利息収入がプラスに寄与したものの、金利変動要因がマイナスに影響し、パフォーマンスが劣後しました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	3.2%	30.8%	26.6%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 今後も金利低下および社債スプレッド拡大を見込んでおり、デュレーションの長期化、社債のオーバーウェイトを継続しつつ、スプレッドリスクを警戒し、ディフェンシブなポジションを維持する方針です。
- 金利戦略については、中長期的な見通しを基本としつつも、短期的には市場環境を見極めながら戦術的に調整することで、より安定したリスク調整後リターンの獲得を目指します。
- パフォーマンスの改善に向け、定期的に運用委託先と協議を行っております。

® 運用実績

債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ)

(運用:マルチアセット・クオンツ運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ)	2019/6/28	9億円	■

ファンドの概要

- 日本国債およびAA-格(債券格付けまたは発行体格付け)以上の日本を除くFTSE世界国債インデックス構成国の国債に投資します。
- 金利シグナル戦略に基づき、日次で金利環境を判定し、金利上昇時における基準価額の下落の抑制を目指します。
- 外貨建資産に対しては、原則として為替ヘッジを行います。

運用実績に関する課題認識

- 先進国の高格付債券を投資対象とし、外貨建て資産については為替ヘッジのうえ、主に「インカム水準」に着目して投資を行います。
- 2022年以降、先進国債券が記録的な下落となったことに加え、海外各国で逆イールド状態(短期金利が長期金利よりも高い状況)が続いたため、為替ヘッジコストの増大により為替ヘッジ後のインカムがマイナスとなる国が多くなり、組み入れ対象となる国が大幅に減少し、インカム水準に基づいた戦略が機能しにくい期間であったことが、パフォーマンス不振の要因となりました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	-14.2%	-21.6%	-22.0%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 金利シグナル戦略について、2024年1月に外国債券シグナルのモデル改良を、2025年7月に国内債券シグナルのモデル改良を実施し、基準価額下落リスクの抑制強化を図りました。
- 足もとでは海外各国で逆イールド状態の解消が進み、組み入れ対象となる国が増えてきました。インカム水準に基づく本戦略にとっては投資環境が改善してきたと考えており、引き続きインカム水準の高いポートフォリオを構築し続けることにより、安定した収益獲得を目指します。

® 運用実績

MHAM J-REITアクティブオープン年1回決算コース

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
MHAM J-REITアクティブオープン年1回決算コース	2013/8/1	28億円	■
MHAM J-REITアクティブファンド<DC年金>	2004/12/30	24億円	■

ファンドの概要

- 国内REITを主要投資対象とし、ベンチマークである東証REIT指数(配当込み)を上回る投資成果を目指します。
- 不動産市況およびJ-REIT個別銘柄の調査・分析に基づく銘柄選択により、付加価値の獲得を追求します。

運用実績に関する課題認識

- オフィス銘柄群の保有比率を適切にコントロールできなかったため、カテゴリー内対比における運用実績が劣後しました。
- 具体的には、同保有比率を、新型コロナの悪影響があった時期にやや高めに、経済正常化が進む過程で低めにしたことなどがマイナスに影響しました。
- 銘柄選択において、大型オフィス銘柄を中心に、マイナスに影響した銘柄が積み重なったことが劣後要因となりました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:MHAM J-REITアクティブオープン年1回決算コース)

	3年	5年	設定来
騰落率	-7.4%	19.2%	71.9%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 配当(分配)及び資産価値の成長性、J-REIT価格の割安性を重視した銘柄選択により、パフォーマンス改善を図ります。
- 不動産市況やマーケット局面の変化を捉え、銘柄及び業種別保有比率などの観点から、ポートフォリオのリスクコントロールを実施する方針です。
- J-REITとの対話を通じたエンゲージメントを強化し、キャッシュフローに着目した独自の調査・分析を深化させることで、セクター及び個別銘柄の魅力度測定やJ-REIT価格の割安性評価の精度向上に努めます。

④ 運用実績

DIAM ワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース)

(同種ファンド数:3ファンド)

(運用:マルチマネジャー株式会社)

ファンド名	設定日	純資産	HP
DIAM ワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース)	2004/4/23	499億円	■
DIAM ワールドREITアクティブファンド(毎月決算型)	2007/5/24	12億円	■
DIAM ワールドREITアクティブファンド<DC年金>	2007/9/27	14億円	■

ファンドの概要

- 世界各国(除く日本)のREITを主要投資対象とします。
- 運用指図に係る権限をデベイス・セレクトド・アドバイザーズ(米国地域担当)およびファースト・センティア・インベスターズ(米国および日本以外の地域担当)に委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 高い配当利回りの獲得を企図して、国別比率では相対的に利回りが低い米国をアンダーウェイトとしましたが、米国市場のパフォーマンスが良好であったことでファンドのパフォーマンスは劣後しました。
- 2024年度は、米国地域においてバリュエーションの観点からアンダーウェイトとした銘柄が大きなパフォーマンスの劣後要因となりました。耐久性のある不動産事業を魅力的なバリュエーション(企業価値と比較した株価指標)で購入し、長期保有する方針が期待通りの結果となりませんでした。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:DIAM ワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース))

	3年	5年	設定来
騰落率	-2.8%	74.4%	207.5%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 米国とその他諸国における配当利回り格差が縮小していることから、米国の投資配分の引き上げを検討します。
- グロース(成長性)要素が強いデータセンターやヘルスケア銘柄では好調なパフォーマンスが長く続きました。セクター間のバリュエーションが均衡していけば、ポートフォリオにおける米国部分のパフォーマンスは改善するものと考えます。

® 運用実績

新光 US-REIT オープン(年1回決算型)

(運用:マルチマネジャー株式部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
新光 US-REIT オープン(年1回決算型)	2013/10/31	127億円	

ファンドの概要

- 米国REITを主要投資対象とします。
- 分散投資を行い、市場平均よりも高い水準の配当収益の確保と長期的な値上がり益の獲得を目指します。
- インベスコ・アドバイザーズ・インクに運用の指図をする権限を委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 市場全体に対してパフォーマンスの低迷が続いたことで、2021年初めに運用プロセスの見直しを行いました。具体的には、サブセクターのアロケーションを機動的に変更し、適切なリスク水準を確保するため、確信度の高い銘柄に絞り込んで運用する仕組みを導入しました。
- 2021年および2022年にパフォーマンス改善の兆しが見られたものの、2023年以降は低迷する結果となりました。米国経済環境および金利見通しの不透明感が強まるなかで、セクターアロケーションが効果を発揮しなかったこと、特定銘柄が上昇トレンドを辿るモメンタム相場となり、相対バリュエーション手法(銘柄やセクター対比で割安な銘柄への選別投資)が機能しなかったこと、加えて保有銘柄を30銘柄程度に絞った集中投資が裏目にでたことから、パフォーマンスが低迷しました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	4.4%	77.9%	141.7%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- パフォーマンス改善に向けて運用委託先と継続的に協議を行ってきました。運用委託先では、2024年8月にREITチームをチーム再生に実績のある株式運用グループのCIO(最高投資責任者)傘下に置き、リサーチ体制の充実を図るなど、チーム体制を一新しました。なお、運用手法の主な変更点は以下の通りです。
 - ①マクロ分析によるセクターアロケーションへの依存度低減と、REIT以外の運用担当者との情報共有拡大
 - ②ビジネスモメンタム(ビジネスが好調で成長している銘柄)を重視し、個別銘柄のボトムアップ調査による徹底した絶対評価分析の活用
 - ③特定銘柄への偏重解消による個別銘柄に起因したリスク要因の抑制と、分析ツールの活用によるリスク管理の徹底
- 今後も厳密な運用状況モニタリングを継続し、牽制機能を発揮しながらパフォーマンス改善に努めてまいります。

® 運用実績

One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%)<DC年金>

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:マルチアセット・クオンツ運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%)<DC年金>	2020/5/13	5億円	■
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%)	2019/11/29	0.1億円	■

ファンドの概要

- 世界各国の株式、債券、通貨、商品等に分散投資します。また、投資効率の向上・リスクコントロールのため先物、為替予約取引等を活用します。
- 資産の組入比率を調整し、基準価額の変動リスクを一定程度*に抑えつつ、中長期的に信託報酬控除前で変動リスク水準と同程度のリターンを獲得を目指します。

*各ファンドの目標リスク水準

運用実績に関する課題認識

- インフレ加速・金融引き締め政策で各国の金利が急速に上昇し、先進国債券が運用実績不振の要因となったことに加え、株式の運用実績も振るわず、2022年度のファンドの運用実績は大きく低迷しました。
- 2023年度以降は株式を中心としたリスク性資産の価格が上昇したことで運用実績が一時改善しました。足元では、株式を中心としたリスク性資産の価格が上昇する環境が継続しており、分散を追求したポートフォリオ構築がリターンを抑制する要因となったため、カテゴリー内対比で運用実績が劣後しました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%)<DC年金>)

	3年	5年	設定来
騰落率	-5.3%	—	-6.1%
運用実績評価	下位	—	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 各資産への投資割合を決定する月次戦略では、市場環境・マクロ環境の変化に対して頑健性を強化し、より安定して収益を獲得できるよう運用戦略の改良に着手しています。2023年11月および2024年4月にモデル改良を実施しました。
- 分散投資の効率を向上させるため、2025年2月にコモディティ投資(商品投資)を再開しました。

④ 運用実績

投資のソムリエ

(同種ファンド数:4ファンド)

(運用:マルチアセット・クオンツ運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
投資のソムリエ	2012/10/26	2,878億円	
投資のソムリエ<DC年金>	2013/10/31	411億円	

ファンド名	設定日	純資産	HP
リスク抑制世界8資産バランスファンド	2016/10/24	1,171億円	
リスク抑制世界8資産バランスファンド(DC)	2017/8/14	5億円	

ファンドの概要

- 世界各国の株式・債券・REITを主要投資対象とします。
- 各資産の配分比率を適宜変更することで、基準価額の変動リスクを一定程度*に抑えながら、安定的な基準価額の上昇をめざします。
- 外貨建資産は投資環境に応じて弾力的に対円での為替ヘッジを行い、一部または全部の為替リスクを軽減します。

*投資のソムリエ:年率4%程度、リスク抑制世界8資産バランスファンド:年率2%程度

運用実績に関する課題認識

- インフレ加速・金融引き締め政策で各国の金利が急速に上昇したことで先進国債券の運用実績が振るわず、株式市場も下落したことから、2022年度のファンドの運用実績は大きく低迷しました。
- 2023年度以降は、株式を中心としたリスク性資産の価格が上昇したことで運用実績が一時改善しました。なお、2024年度も引き続き株式などのリスク性資産の価格が上昇基調で推移するなか、基準価額の安定性(リスク抑制)を重視する当ファンドは、他社の同種ファンドと比較して運用実績が劣化する状況が継続しました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:投資のソムリエ)

	3年	5年	設定来
騰落率	-8.6%	-10.3%	10.9%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 各資産への基本的投資割合を決定する月次戦略では、市場環境や経済環境の変化に対しての頑健性を強化し、より安定して収益を獲得できる戦略への改良に着手しています。2023年11月および2024年4月に運用モデル改良を実施しました。
- 機動的に各資産の投資を実行する日次戦略では、株式等のリスク資産と債券等の安全資産のシグナルの改良を実施しました。ウェイト調整を精緻に行うことで運用実績の維持・安定効果を維持しつつ、市場の上昇を取り逃さないことを目指します。
- 上記に加え、市場環境の変化に対応して安定的に運用実績を積み上げるため、継続的に運用戦略の見直し等を進めます。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

みらいのサイフ(ベーシックコース)

(同種ファンド数:3ファンド)

(運用:マルチアセット・クオンツ運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
みらいのサイフ(ベーシックコース)	2021/12/29	9億円	■
みらいのサイフ(エントリーコース)	2021/12/29	9億円	■
みらいのサイフ(アドバンスコース)	2021/12/29	5億円	■

ファンドの概要

- 世界各国の株式・債券・金を主要投資対象とします。
- 基準価額の変動リスクを一定程度*に抑えることを目指して、運用を行います。
- 外貨建ての証拠金については、原則として為替ヘッジを行います。

*エントリーコース:年率2%程度、ベーシックコース:年率4%程度、アドバンスコース:年率8%程度

運用実績に関する課題認識

- インフレ加速・金融引き締め政策で各国の金利が急速に上昇したことで先進国債券の運用実績が振るわず、株式市場が下落したことから、2022年度のファンドの運用実績は大きく低迷しました。
- 2023年度以降は、株式を中心としたリスク性資産の価格が上昇したことで運用実績が一時改善しました。なお、2024年度も引き続き株式などのリスク性資産の価格が上昇基調で推移するなか、変動リスクを一定程度に抑えることを重視する当ファンドは、他社の同種ファンドと比較して運用実績が劣化する状況が継続しました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:みらいのサイフ(ベーシックコース))

	3年	5年	設定来
騰落率	-4.9%	—	-9.3%
運用実績評価	下位	—	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください

改善に向けた取り組み

- 日次戦略について、市場回復局面におけるリターンを十分に享受できない課題に対応するため、株式シグナルの改良を2024年8月より導入しました。
- 国内債券シグナル・外国債券シグナルについても改良を予定しており、2025年上期に導入予定です。
- 月次戦略については、リスクモデルの推定精度向上を軸にパラメータ推定手法の見直し等を2025年度に検証・実施予定です。

® 商品性(費用)

商品性において費用(総経費率)が相対的に高いファンド

ファンド名	設定日	純資産	総経費率	HP	商品性に関する課題認識・改善に向けた取り組み
MHAM TOPIXオープン	1998/10/22	110億円	0.66%	■	●設定時期が古いインデックスファンドやそのシリーズファンド、希少性のあるインデックスファンド(同種ファンドが少数等)で総経費率が相対的に高くなりました。総経費率の適切性等をモニタリングしてまいります。
MHAMトピックスファンド	2001/6/29	35億円	0.66%	■	
コア30インデックス	1998/11/30	12億円	0.88%	■	
DIAM世界リートインデックスファンド(毎月分配型)	2006/6/12	1,695億円	0.97%	■	
DIAM世界リートインデックスファンド(隔月分配型)	2023/9/28	17億円	1.20%	■	
たわらノーロード S&P500配当貴族	2023/12/26	3億円	0.94%	■	●信託報酬率の水準は適正と認識しておりますが、純資産総額が比較的小さいことにより、信託報酬以外にかかる「その他費用」の比率が高まり、総経費率が上昇しました。
たわらノーロード フォーカス フィンテック	2020/1/16	7億円	1.49%	■	●今後の純資産総額を踏まえ、「総経費率」の動向について注視してまいります。
MHAMキャピタル・グロース・オープン	1999/10/28	22億円	1.88%	■	●運用実績を十分にご提供できていないことが課題と認識しております。(運用実績に対する課題認識等については、P38・P40・P41をご参照ください) ●運用実績の改善を通じて、費用に見合ったファンド提供価値の向上に努めます。
通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型)円コース	2011/1/6	17億円	1.61%	■	
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%)	2019/11/29	18億円	1.83%	■	

® 運用実績

2024年9月モニタリング対象ファンドの現状と取り組み方針

- 2024年9月評価基準で「レッド評価」の31ファンドは「モニタリングファンド」として、課題の改善状況や今後の取り組み方針等を継続的に確認しています。
- 運用実績におけるモニタリングファンドの「運用実績の改善に向けた取り組み」と「今後の取り組み方針」は下記の通りです（2025年3月時点の取り組み状況・取り組み方針）。

■株式を主要投資対象とするファンド(8ファンド)



：2025年3月評価において改善傾向が見られているファンド

2024年9月基準・レッド評価ファンド	運用実績の改善に向けた取り組み	今後の取り組み方針
DIAM新興企業日本株ファンド	<p>前回掲げた取り組み(右の今後と同様)を着実に実行し、銘柄選別・入替を進めました。</p> <p>結果として業種ウェイトでは、情報・通信業、証券、商品先物取引業などを引き上げた一方、電気機器、銀行業などを引き下げました。</p>	<p>引き続き、社会課題に挑む経営者・組織・テクノロジーを中心とした新興企業への投資、長期での企業価値創出ができる企業への積極的な評価を通じて、改善対応を実施します。</p>
MHAMキャピタル・グロース・オープン	<p>日本株は小型株から大・中型株へのウェイトを高めることで規模的な分散を図りました。</p> <p>また、業種に関して保有比率の高かったサービス業から銀行業、建設業などに分散させることで幅広い成長の取り込みを進めました。</p> <p>海外株は大型株中心の運営を継続しました。</p>	<p>引き続き、日本株、海外株ともに競争優位性が高い成長企業の組み入れによってパフォーマンス改善を図ります。</p> <p>日本株においては規模の分散を維持しつつ、投資環境に応じて適切な規模や業種のリスクコントロールを行う方針です。</p> <p>海外株は引き続き大型株を中心に銘柄選別を進めます。</p>
MHAM日本成長株オープン	<p>ファンドに取り入れる成長分野を広げるとともに、業種分散を進めることで規模(小型)や業種(特定分野)リスクのバランスを図りました。</p> <p>これにより、電気機器や小売業、食品の組み入れを増やしたほか、建設業や銀行業の新たな組み入れを進めました。</p>	<p>今後につきましても、業種(特定分野)リスクを抑制するために、新たな成長分野への投資を進めます。</p> <p>また米国の関税政策などの外的要因による各企業の業績見通しの変化を考慮し、銘柄を入れ替えることで運用実績の改善に取り組んでいきます。</p>
MHAM日本成長株ファンド<DC年金>		
One日本の成長力α<DC年金>		
きらぼし・みらい応援株式ファンド	<p>前回掲げた取り組み(右の今後と同様)を着実に実行し、銘柄選別・入替を進めました。</p> <p>結果として業種ウェイトでは、情報・通信業、証券、商品先物取引業などを引き上げた一方、サービス業、輸送用機器などを引き下げました。</p>	<p>引き続き、社会課題に挑む経営者・組織・テクノロジーを中心とした新興企業への投資、長期での企業価値創出ができる企業への積極的な評価を通じて、改善対応を実施します。</p>
日本厳選中小型株ファンド		
未来変革日本株ファンド	<p>前回掲げた取り組み(右の今後と同様)を着実に実行し、銘柄選別・入替を進めました。</p> <p>結果として業種ウェイトでは、証券、商品先物取引業、情報・通信業などを引き上げた一方、サービス業、銀行業などを引き下げました。</p>	<p>引き続き、社会課題に挑む経営者・組織・テクノロジーを中心とした新興企業への投資、長期での企業価値創出ができる企業への積極的な評価を通じて、改善対応を実施します。</p>

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

2024年9月モニタリング対象ファンドの現状と取り組み方針

■債券を主要投資対象とするファンド(4ファンド)



:2025年3月評価において改善傾向が見られているファンド

2024年9月基準:レッド評価ファンド	運用実績の改善に向けた取り組み	今後の取り組み方針
グローバル・ボンド・ポート(Cコース)	24年9月末基準の「改善に向けた取り組み」に基づき ①米新政権の政策動向やマネーサプライのモニタリングの強化 ②金利リスクの機動的な調整 ③中国債券の通貨・金利比率調整 ④為替の運用ユニット間連携強化・分析リソース拡充を実施しました。	24年9月末基準の「改善に向けた取り組み」に基づいた運用により、運用改善の効果が一定程度見られるため、今後もこの方針を継続します。
グローバル・ボンド・ポート(Dコース)		
グローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース (為替ヘッジなし)		
DIAMグローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース2		

 運用実績

2024年9月モニタリング対象ファンドの現状と取り組み方針

■REITを主要投資対象とするファンド(10ファンド)



:2025年3月評価において改善傾向が見られているファンド

2024年9月基準:レッド評価ファンド	運用実績の改善に向けた取り組み	今後の取り組み方針
MHAM J-REITアクティブオープン毎月決算コース	大型オフィス銘柄を中心にリスクコントロールを実施しました。また、業種ごとの投資割合を均等にし、割安な銘柄の投資を増やしました。	今後も個別銘柄のリサーチと企業との積極的なエンゲージメントを実施し、成長が期待できる銘柄に投資して参ります。また、米国関税による金融市場の混乱の中で、銘柄の売買動向や価格変化を注視します。
MHAM Jリートアクティブファンド(毎月決算型)		
通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型)円コース	大型オフィス銘柄を中心にリスクコントロールを実施しました。また、業種ごとの投資割合を均等にし、割安な銘柄の投資を増やしました。	今後も個別銘柄のリサーチと企業との積極的なエンゲージメントを実施し、成長が期待できる銘柄に投資して参ります。また、米国関税による金融市場の混乱の中で、銘柄の売買動向や価格変化を注視します。
通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型)米ドルコース		
通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型)豪ドルコース		
通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型)ブラジルリアルコース		
みずほ J-REIT ファンド	大型オフィス銘柄を中心にリスクコントロールを実施しました。また、業種ごとの投資割合を均等にし、割安な銘柄の投資を増やしました。	今後も個別銘柄のリサーチと企業との積極的なエンゲージメントを実施し、成長が期待できる銘柄に投資して参ります。また、米国関税による金融市場の混乱の中で、銘柄の売買動向や価格変化を注視します。
みずほ J-REIT ファンド(年1回決算型)		
りそなJリート・アクティブ・オープン	住宅REITやホテルREITの投資割合を減らしたことが成果を上げました。また、アンダーウエイトしていたオフィスセクターのウエイトを銘柄選択に注意しながら中立に近づけました。	スポンサーサポートの充実が期待できる銘柄を中心に投資を行い、投資割合の調整を実施していきます。
新光 US-REIT オープン	2025年8月下旬にCIOが退任し、9月末から新チーム体制での運用を開始して、個別銘柄の銘柄選択に注力する方針を掲げポートフォリオを再構築しました。	個別銘柄の銘柄選択に注力する方針を継続します。今後とも、ポートフォリオの状況をモニタリング・必要に応じて調整を実施していきます。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

 運用実績

2024年9月モニタリング対象ファンドの現状と取り組み方針

■複合資産に投資するファンド(バランス型ファンド) (9ファンド)



:2025年3月評価において改善傾向が見られているファンド

2024年9月基準:レッド評価ファンド	運用実績の改善に向けた取り組み	今後の取り組み方針
ワールドアセットバランス(基本コース)	運用手法の改良を2024年12月に実施しました。 具体的には、収益成長や物価上昇率、為替ヘッジコストなどの外部環境変化を捉えた期待リターン推計手法に変更しました。	マーケット環境と照らし合わせながら、新しい運用手法の有効性をモニタリングしていきます。
ワールドアセットバランス(リスク抑制コース)		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%)	2025年2月より、コモディティ投資(商品投資)を再開しました。	株式市場・債券市場の動きが不安定な中にあるため、今後もパフォーマンス動向を注視し、必要に応じて追加の対応を随時実施していきます。
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク6%)		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク4%)		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%) <DC年金>		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク6%) <DC年金>		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク4%) <DC年金>		
世界8資産リスク分散バランスファンド (目標払出し型)	2023年11月および2024年3月に実施した月次戦略・日次戦略の改良による効果のモニタリングを継続中です。	安定資産における日次戦略について、資産の下落に対する抑制効果を維持しつつ、資産の上昇局面において効果的に追従できるように2025年4月に改良を行いました。

® 商品性(品質)

® 情報開示

2024年9月モニタリング対象ファンドの現状と取り組み方針

- 商品性(品質)と情報開示におけるモニタリングファンドの「取り組み状況」は下記の通りです(2025年3月時点の取り組み状況・取り組み方針)。

® 商品性(品質)

2024年9月基準:レッド評価ファンド	商品性に関する課題	取り組み状況
<p>対応完了</p> <p>グローバル新世代関連株式ファンド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●当ファンドは、ミレニアルズに関連した市場に関連する企業への投資を通じて信託財産の成長を目指していますが、時代の進展に伴い、「グローバル新世代」の中心的存在がミレニアルズ世代から次世代へ移りつつあるため、「ミレニアルズ」という文言の修正が必要と考えます。 ●なお、長期投資のテーマとして、その時々々の若者世代あるいは新世代に着目した投資自体には普遍性があると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目論見書や投資信託約款(運用の基本方針)等にある「ミレニアルズ」という文言を、「新世代」という文言に変更しました。これにより、長期的視点で「就労して収入増加を経験する“新世代”」に着目した投資の継続を維持する方針とします(なお、この文言変更に伴って投資対象やポートフォリオの構築手法が変更となるものではありません)
<p>継続対応中</p> <p>One ターゲットリターン・ファンド(4%コース)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●市場環境が変化し、ポートフォリオの中心が債券を主とした運用であることや、為替ヘッジコストが上昇したこと等から、中長期的な目標リターンである年率4%の達成には投資対象ファンドの入替が必要と考えます。 ●資産運用規模が大きくないことにより1ファンド当たりの投資額が2億円と小規模のため、各投資対象ファンドの運用戦略の維持が困難な状態です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●投資対象である5つの投資信託証券(ファンド)について、ファンドの入替え、投資対象の厳選による1ファンドあたりの投資額の拡大などの見直しを検討中です。 ●パフォーマンスの改善が見込まれない場合は、抜本的な対応策を検討します。

® 情報開示

2024年9月基準:レッド評価ファンド	情報開示に関する課題	取り組み状況
<p>対応完了</p> <p>ドルマネーファンド DIAM成長株オープン DL日本株式オープン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●月次レポートにおいて、ファンドの動きやマーケットの見通し等のコメントがありませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドの動きやマーケットの見通し等のコメントを追加しました。 ●ファンドの運用状況や動きやマーケット見通しなどを、分かりやすさに留意してコメントを記載し、積極的な情報開示に努めます。
<p>対応完了</p> <p>One高配当利回り厳選ジャパン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●当ファンドは配当利回りに着目して運用するファンドですが、現在月次レポートにはポートフォリオの配当利回りが開示されていませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●月次レポートにポートフォリオの配当利回りの情報を追加しました。 ●ファンドの特性や運用状況をご理解いただく上で有用な情報については、開示内容を充実させるなど、適切かつタイムリーな情報提供に取り組みます。

個別ファンド評価(グリーン評価)

① 運用実績上位(グリーン評価)のサマリー

評価項目

 運用実績

- 運用実績が他社の同一カテゴリーファンドと比較して上位に位置するグリーン評価ファンドは合計24ファンド
- 24ファンドの内訳は、株式型11ファンド、債券型5ファンド、バランス型8ファンド

<ファンド評価結果の個別ページにおけるご留意事項>

- 本資料では、同一シリーズや同一運用戦略に分類されるファンドを「同種ファンド」として扱います。
(決算頻度や分配方針、為替ヘッジの有無、通貨コースなどに違いがあっても同一の運用戦略にもとづいて運用される場合は、「同種ファンド」とします。)
- 次ページ以降ページ左上のタイトルには、同種ファンド内で一番残高が大きいファンドの名称を記載しています。
- 次ページ以降の「ファンドの概要」において記載する投資対象は、直接投資または、各ファンドが外国籍投信やマザーファンド等を通じて実質的に投資する資産を指します。
- 次ページ以降の各種データは、2025年3月31日時点のものです。

③ 運用実績

IBJITMジャパン・セレクション

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:株式運用部)

運用実績が他社の同一カテゴリーファンドと比較して上位に位置するグリーン評価24ファンドのうち、短時的な運用実績やベンチマーク・参考指数対比での運用実績を踏まえ、12ファンドについて運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点について記載(P44～P51)。

ファンド名	設定日	純資産	HP
IBJITMジャパン・セレクション	1998/9/18	58億円	■
DIAMジャパン・セレクション<DC年金>	2001/11/1	40億円	■

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とします。
- 大局観や相場局面判断を重視し、個別銘柄の調査・分析に基づき成長性とバリュー(株価の割安性)の側面等を勘案して投資銘柄を選定します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 金融政策正常化、電力設備投資拡大、IP(知的財産)コンテンツの評価の高まりなどのテーマを捉え、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定が良好な実績に繋がりました。
- 今後も機動的なトップダウン判断とリサーチ力を活かした投資を継続し、一層の運用実績の向上に取り組んでまいります。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:IBJITMジャパン・セレクション)

	3年	5年	設定来
騰落率	57.2%	138.9%	567.5%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



◎ 運用実績

MHAMジャパンオープン

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
MHAMジャパンオープン	1999/4/27	25億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象として、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を上回る運用成果を目指します。
- 個別企業調査や産業調査に基づき個別企業の投資価値判断を行い、中・長期的に投資魅力が高いと判断される銘柄を選定します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 利益成長性および株価バリエーション(企業価値と比較した株価指標)を重視した個別銘柄分析に基づき、銘柄選定を行いました。具体的には、技術革新、政策サポートなどによる構造的な業績成長に着目した銘柄選定が良好な実績に繋がりました。
- 今後も長期的に株主価値の成長が見込める銘柄選定を続け、一層の運用実績の向上に取り組んでまいります。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	52.6%	136.9%	234.7%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資) = 前日基準価額(分配金再投資) × (当日基準価額 ÷ 前日基準価額) (*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



※当ファンドは、2000年6月30日に分割が行われております。基準価額(分配金再投資)は、分割が行われずかつ分配金(税引前)を再投資したものと仮定して算出した収益率に基づきます。

③ 運用実績

One高配当利回り厳選ジャパン

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One高配当利回り厳選ジャパン	2019/11/13	86億円	■

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、「配当利回り」と「長期にわたる配当の持続性・成長性」に着目し、20～40銘柄程度に厳選投資します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 長期的な視点に基づき企業の競争優位性や外部環境の変化を詳細に調査・分析し、個別銘柄のファンダメンタルズ評価(ROE(自己資本利益率)の創出力評価)を行いました。
- 長期的なROEの創出力を背景に配当の持続性・成長性が期待できる銘柄に厳選投資したことが良好な実績に繋がりました。
- 引き続き業界トップクラスのアナリスト体制を最大限活用し、リターンの積上げを目指します。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	61.8%	149.8%	102.3%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資) = 前日基準価額(分配金再投資) × (当日基準価額 ÷ 前日基準価額) (*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



◎ 運用実績

One割安日本株ファンド

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One割安日本株ファンド	2012/2/23	256億円	■
One割安日本株ファンド(年1回決算型)	2013/12/13	158億円	■

ファンドの概要

- 国内の割安な株式を主要投資対象とします。
- 運用にあたっては、株価のバリュエーション(企業価値と比較した株価指標)に着目しつつ、それぞれの企業のファンダメンタルズ等も勘案し、相対的に高い配当収入と値上がり益の獲得を目指します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 株価指標(バリュエーション)が割安な銘柄に投資を行い、相対的に高い配当収入と値上り益の獲得を目指し運用を行いました。個別銘柄の調査を徹底的に行い、カタリスト(株価上昇のきっかけとなる要因)を市場に先んじて特定したことが良好な実績に繋がりました。
- 今後も割安銘柄のなかでカタリストのある銘柄を選択し、運用実績の維持・向上に取り組んでまいります。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:One割安日本株ファンド)

	3年	5年	設定来
騰落率	68.1%	172.9%	418.8%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



◎ 運用実績

新光日本インカム株式ファンド(3ヵ月決算型)

(運用:株式運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
新光日本インカム株式ファンド(3ヵ月決算型)	2005/7/29	735億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、予想配当利回り、配当性向および信用リスクなどの基準を用いて候補銘柄を抽出したのち、業績動向、株価指数ならびに流動性などを総合的に勘案し、安定した配当等収益の確保を目指します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 配当利回りの水準に加え、長期的に配当金を増加させることができるかを重視して選別投資を行ったことが良好な実績に繋がりました。また、日本企業が資本効率の改善に向けた取り組みを進めるなか、株主還元の拡充が広がったことも、運用実績にプラスの影響となりました。
- 引き続き業界トップクラスのアナリスト体制を最大限活用し、リターンの積上げを目指します。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	62.9%	165.2%	262.4%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資) = 前日基準価額(分配金再投資) × (当日基準価額 ÷ 前日基準価額) (*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

◎ 運用実績

グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(予想分配金提示型) (為替ヘッジなし)

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:マルチマネジャー株式部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(予想分配金提示型) (為替ヘッジなし)	2021/10/25	545億円	■
グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(予想分配金提示型) (限定為替ヘッジ)	2021/10/25	12億円	■

ファンドの概要

- 世界各国の株式(上場予定を含む)を主要投資対象とします。
- ポートフォリオの構築にあたっては、投資アイデアの分析・評価や、個別企業の競争優位性、成長力の評価に基づき選定した質の高いと考えられる企業(ハイクオリティ成長企業)の中から、市場価格が理論価格より割安と判断される銘柄を厳選して投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに株式等の運用の指図に関する権限の一部を委託します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 短期的な市場動向に右往左往することなく、徹底したボトムアップ・アプローチを通じて、長期にわたり持続可能な競争優位性を有し、高い利益成長が期待できるハイクオリティ成長企業に割安な価格で厳選投資を行うという投資哲学を堅持したことが、良好な実績につながりました。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(予想分配金提示型) (為替ヘッジなし))

	3年	5年	設定来
騰落率	61.1%	—	33.5%
運用実績評価	上位	—	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額) (*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



◎ 運用実績

フロンティア・ワールド・インカム・ファンド

(同種ファンド数:2ファンド)

(運用:マルチマネジャー債券部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
フロンティア・ワールド・インカム・ファンド	2006/3/31	153億円	■
フロンティア・ワールド・インカム・ファンド(年1回決算型)	2013/9/30	6億円	■

ファンドの概要

- 新興国の政府または政府機関などが発行する債券を主要投資対象とします。
- 投資にあたっては、フランクリン テンプルトン インベストメント マネジメント リミテッドから投資助言および情報提供を受けます。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 厳選された新興国ユニバースを3つのカテゴリーに分類し、投資上限を規定し運用している点が特徴です。先進国通貨・現地通貨のいずれでも投資可能なため、投資環境に対応した収益を得ることが可能です。
- 新興国債券市場は、投資家の特性や流動性などから非効率性が生じているとみているため、ボトムアップのファンダメンタルズ調査を重視することで、非効率性を特定し、投資機会を捉えます。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

(代表ファンド:フロンティア・ワールド・インカム・ファンド)

	3年	5年	設定来
騰落率	43.9%	74.2%	182.0%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)=前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(*決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



③ 運用実績

マネックス資産設計ファンド エボリューション

(運用:マルチアセット・クオンツ運用部)

ファンド名	設定日	純資産	HP
マネックス資産設計ファンド エボリューション	2010/5/28	21億円	■

ファンドの概要

- 世界各国の株式・債券・REITへ分散投資します。
- 基本ポートフォリオの推定リスク水準は原則として日本株投資*と同程度としつつも、世界の複数資産へ高度な分散投資を行うことにより、効率の良い運用を目指します。
- 基本ポートフォリオの資産配分比率の決定にあたっては、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンの投資助言を受けます。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*過去30年間(1993年～2023年)の日経平均株価の標準偏差は概ね年率20%程度です。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 資産配分比率は、助言会社の方針を基に、中長期的な見通しや、構成比の変更内容の妥当性、より良い投資戦略案がないかといった事柄について同社と運用担当部署で議論を実施することで、双方納得のうえ構成比を決定しており、当プロセスが効果的に機能していると考えております。

基準価額(分配金再投資)*1騰落率と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	34.2%	123.2%	302.7%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 基準価額(分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。基準価額(分配金再投資)＝前日基準価額(分配金再投資)×(当日基準価額÷前日基準価額)(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください



用語集

アンダーウェイト	投資対象の配分比率を、基準となる資産やベンチマーク等の比率より小さくすることです。
エンゲージメント	投資先企業との対話を通じて経営の改善を促し、企業の持続的な成長と企業価値の向上を図る活動を指します。
オーバーウェイト	投資対象の配分比率を、基準となる資産やベンチマーク等の比率より大きくすることです。
クレジットリスク	Credit Riskで信用リスクのことを指します。信用リスクとは、投資する株式の発行者や、債券の発行体が財務状態の悪化などにより、その株式や債券の価格が下落したり、デフォルト(債務不履行)になるリスクのことです。
グロース	growth(成長性)を指します。将来高い成長性が見込める銘柄を一般にグロース銘柄/グロース株(成長銘柄/成長株)と呼び、こうした銘柄に投資する運用をグロース型投資といいます。
スプレッド	「債券の利回りの差(スプレッド)」を意味し、社債などに投資する際に、同じ残存期間の国債などとの利回り格差を比較することで、債券の割安さや信用リスクの大きさを比べることができます。
デュレーション	金利の動きに対する債券価格の感応度のことです。金利がある一定の割合で変動した場合、債券の価格がどの程度変化するかを示す指標のことです。この数値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。
パフォーマンス	ファンドの運用成績のことです。ある期間における「ファンドの基準価額の騰落率」、「ベンチマークに対する超過収益率」、「標準偏差(リスクの度合いを示す指標)」などを使ってパフォーマンス(運用成績)を評価します。
バリュエーション	企業の利益・資産等、本来の企業価値と照らし合わせ、株価の割安・割高を判断するための指標です。代表的なものに、PER(株価収益率)やPBR(株価純資産倍率)、PCFR(株価キャッシュフロー倍率)などがあります。
バリュー	value(価値)のこと。PER(株価収益率)やPBR(株価純資産倍率)などのバリュエーション指標を用いて投資価値を判断し、割安と判断される銘柄を一般にバリュー銘柄/バリュー株と呼び、こうした銘柄に投資する運用をバリュー型投資といいます。
ファンダメンタル分析	マクロ経済、産業動向、個別企業などの経済的基礎要因を基に行う分析です。
ボトムアップアプローチ	ファンドのポートフォリオ構築・運用手法の一つです。個別企業のファンダメンタルズ調査などによるミクロ経済分析に基づき、組入銘柄を選択してポートフォリオを構築する運用手法です。
モメンタム	相場の勢いを示す際の表現で、「業績モメンタム」、「株価モメンタム」などの形で使われます。またテクニカル分析で、相場の強弱を測る指標の一つとして利用されています。
リスク	投資におけるリスクとは「収益の不確実性」を指します。収益のブレが大きいものほどリスクが大きく、収益のブレが小さいものほどリスクが小さいといいます。有価証券の価格変動(収益のブレ)の大きいものをハイリスク、小さいものをローリスクといいます。

ご留意事項等

- 本資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- お申込に際しては、販売会社からお渡する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 各ファンドは、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 本資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額については元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

<指数の著作権等>

- 東証株価指数および東証REIT指数の指数値および東証株価指数および東証REIT指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数および東証REIT指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数および東証REIT指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。JPXは、東証株価指数および東証REIT指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
- ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)は、アセットマネジメントOne(株)の関係会社ではなく、当ファンド(MHAM豪ドル債券ファンド(年1回決算型))を承認し、是認し、レビューしまたは推奨するものではありません。ブルームバーグおよびブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックスは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標またはサービスマークであり、アセットマネジメントOne(株)に対してライセンスされています。ブルームバーグは、ブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックスに関連するいかなるデータまたは情報の適時性、正確性または完全性も保証するものではありません。
- FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンド(債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ))のスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

<データの著作権等>

- ©2025 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1)Morningstarおよび/またはそのコンテンツ提供者の専有財産であり、(2)複製または配布は禁止されており、また(3)正確性、完全性及び適時性のいずれも保証するものではなく、また(4)投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者は、この情報の使用により生じるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。



アセットマネジメントOne